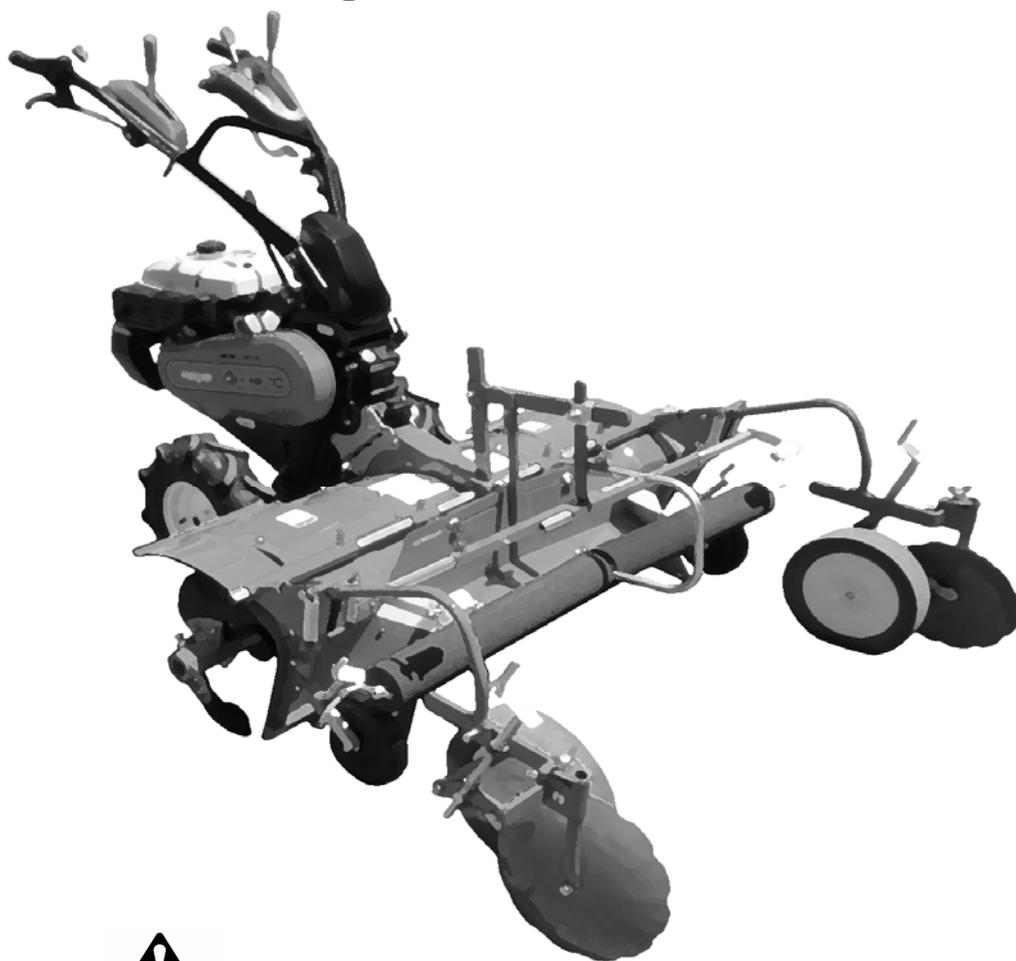


ヘルパー管理機

取扱説明書

KMR70

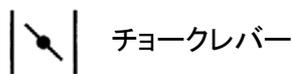


当製品を安全に、正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

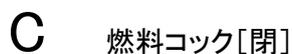
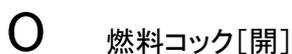


操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないように注意してください。



専門用語の説明



本製品の使用目的について

本製品は、農業用機械ですので農作業以外では使用しないでください。
使用目的以外の作業、また夜間作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。
(詳細は保証書をご覧ください。)

はじめに

このたびは本製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。
ご使用前によくお読みいただき十分理解され、お買上げの製品が優れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。
また、お読みになった後必ず大切に保管し、分からないことがあった時には取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

安全 第一

本書に記載した注意事項や機械に張られた  の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■ 注意表示について

本取り扱い説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように説明しています。

-  **危険**：注意事項を守らないと死亡または重傷を負うことになるものを示します。
-  **警告**：注意事項を守らないと死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
-  **注意**：注意事項を守らないとけがを負うおそれがあるものを示します。
- 重要**：注意事項を守らないと機械の損傷や故障のおそれがあるものを示します。
- 補足**：その他、使用上役立つ補足説明を示します。

目次

▲ 安全に作業するために

機体方向の説明	! -1
諸注意事項	! -2
警告ラベルと貼り付け位置	! -6

サービスと保障について

各部の名称と装置の取扱い

装置の名称	2
各部の名称とはたらき	3
主クラッチレバー	3
フィンガーレバー	3
エンジンスイッチ	3
リコイルスタータ	3
チョークレバー	4
操向クラッチレバー	4
ハンドル高さ調節レバー	4
スロットルレバー	4
ロータリレバー	5
走行変速レバー	5
燃料コックレバー	5
燃料キャップ	5
マフラー	5
燃料メータ	6
六角ホイールチューブ	6

作業前の点検

調子よく作業するために	7
安全に作業するために	9

運転のしかた

新車時の扱い	10
ならし運転	10
エンジンの始動と停止のしかた	10
始動のしかた	10
停止のしかた	11
発進のしかた	13

作業のしかた

上手な作業のしかた	14
耕うん作業手順	14
旋回手順	14
畦立ての調節	15
マルチの調節	15
尾輪の高さ調節	16
覆土板の調節	17

管理機の簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について	18
------------	----

日常の手入れ	18
エンジンオイルの交換	18
ミッションオイルの交換	18
エアクリーナエレメントの清掃と オイル交換	20
燃料フィルタの清掃	21
タイヤ空気圧	21
点火プラグの調節・清掃・交換	21
主クラッチケーブルの調節	22
操向クラッチケーブルの調節	23
ハンドル上下の調節	23
ロータリケーブルの調節	23
スロットルレバーの調節	24
移動時のマルチ押さえアーム	24
耕うん爪の取付け方	24
輪距の調節	27
使用後の手入れ	28
エンジン始動不良を防ぐために	28
長期保管時の手入れ	28
燃料の抜取り	28
洗車時の注意	29

管理機を運搬するとき

自動車(トラック)への積込み、運搬	30
-------------------	----

付表

主要諸元	31
標準付属品	32
主な消耗部品一覧	32

トラブルと処置

エンジンが始動しないとき	33
エンジン回転数が上がらない、 不安定、出力が不足するとき	33
エンジンが振れる、 異音が発生する。	33
本製品の駐車について	34

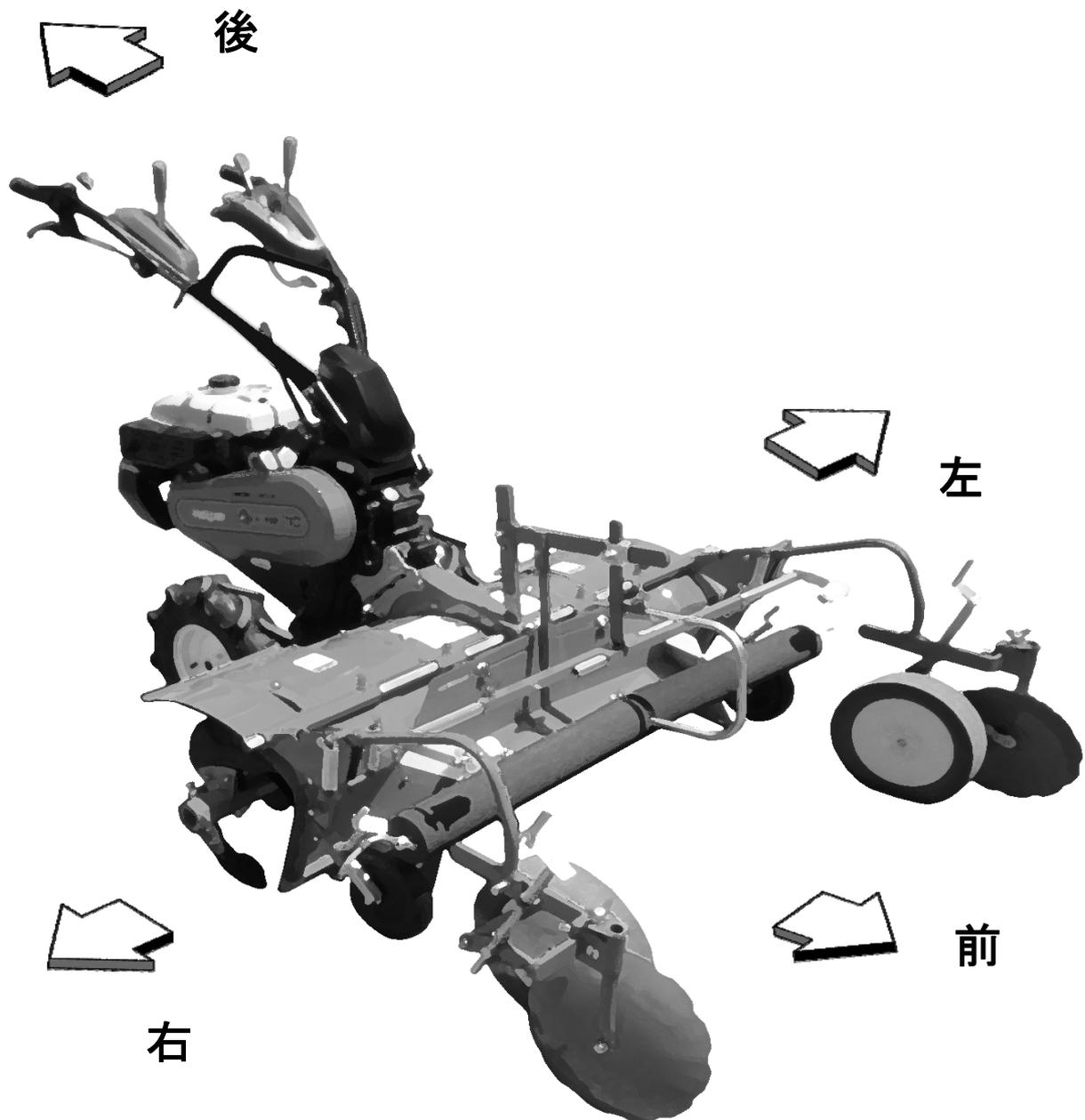


安全に作業するために

本機をご使用になる前に、必ず「取扱説明書」をよく読み、理解した上で安全な作業をしてください。
この「取扱説明書」で使用している〈前後、左右〉などの《用語》は図示のように決めています。

本取扱説明書では作業方向を後としています。

作業時は作業者から見て後進で作業方向、前進で作業の逆方向に進むことになります。





安全に作業するために

管理機の取扱いは正しく、ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で効率的な作業を行うために、次のことをお守りください。



危険

以下の項目に該当する人は、機械を使用しない

1. 飲酒時や体調の悪い時、または妊娠中の人
2. 本書及びラベルの内容が理解できない人
3. 視力不足などのため表示内容が読めない人
4. 16歳未満の人
5. ハンドルを操縦する体力に自信のない人

〈守らないと〉

死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招くおそれがあります。



危険

作業に適した服装

1. はち巻・首巻・腰タオルは厳禁
2. だぶつきのない服装
3. ヘルメットなどの防護具の着用

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。



危険

他人に機械を貸すときは取扱い方法を説明する

取扱い方法を説明し、使用前に取扱い説明書を必ず読むように指導してください。

〈守らないと〉

死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招くおそれがあります。



危険

機械の改造禁止

純正部品や指定アタッチメント以外の部品を取付けないでください。
機械を改造しないでください。

〈守らないと〉

死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招くおそれがあります。



注意

点検・整備を行う

機械を使う前と後には必ず点検・整備をしてください。

定期の点検・整備は必ず受けてください。

〈守らないと〉

事故・ケガ・機械の破損を招くおそれがあります。



警告

ロータリ作業ではダッシュに注意

土が硬かったり石の多い場所ではロータリをゆっくりと地面に下ろしてください。

回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛び出す(ダッシュする)ことがあります。

〈守らないと〉

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



危険

ハウス内での作業は換気を充分にする

排気ガスが充満しないように充分に換気を行ってください。

〈守らないと〉

排気ガス中毒を起こし、死亡することがあります。



安全に作業するために



警告

子供を近付けない

子供には十分に注意し機械に近づかせず絶対に触れさせないでください。

〈守らないと〉

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



警告

作業機を装着するときは、作業機の取扱説明書を読む

作業機を装着するときは、事前に必ず作業機の説明書をよく読んで理解してください。

〈守らないと〉

傷害事故や機械の破損を引き起こすおそれがあります。



警告

作業機の脱着は平坦な場所で行う

作業機の脱着は平坦で安定した場所で行ってください。

夜間は適切な照明をしてください。

〈守らないと〉

傷害事故や機械の破損を引き起こすおそれがあります。



警告

溝、あぜ越えは、アユミ板を使用する

ほ場に入るとき、溝、あぜを渡るときや軟弱な所を通るときは幅、長さ、強度の充分にあるアユミ板を使用してください。

〈守らないと〉

転倒やスリップによる事故を引き起こすおそれがあります。



注意

点検・整備は平坦な場所で行ってください

点検・整備は機械が倒れたり、動いたりしない平坦で安定した場所でタイヤに輪止めをして行ってください。

〈守らないと〉

機械が転倒するなど、思わぬ事故を招くおそれがあります。



警告

点検・整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または掃除を行うときはエンジンを停止させ、エンジンやマフラーが十分に冷えた状態で行なってください。

〈守らないと〉

ヤケドをするおそれや機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。



警告

カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は必ず元通りに取付けてから作業してください。

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。



警告

下にもぐったり、足を入れない

ロータリの点検・整備をするときは、下にもぐったり足を踏みこんだりしないでください。

〈守らないと〉

ロータリが下がったとき傷害事故を負うおそれがあります。



安全に作業するために



危険

燃料補給・注油時は火気厳禁

燃料を補給する、あるいは機械に注油する際はエンジンを停止させてください。
また、くわえタバコでの作業、裸火照明の下での作業は絶対にしないこと。

〈守らないと〉

燃料に引火し火災を引き起こすおそれがあります。



警告

燃料キャップを閉め、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給した後は、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料をきれいに拭き取ってください。

〈守らないと〉

燃料に引火し火災を引き起こすおそれがあります。



危険

排気ガスには十分に注意する

閉め切った室内ではエンジンを始動しないでください。

エンジンは風通しの良い屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は十分に換気してください。

〈守らないと〉

排気ガス中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。



注意

マフラーの高温に注意

運転中及びエンジン停止直後のマフラーは高温です。

触れないでください。

〈守らないと〉

ヤケドをするおそれがあります。



警告

マフラー、エンジン周りのゴミは取り除く

マフラー、エンジン周辺にゴミ、ワラズ、燃料が付着していないか作業前に点検し、付着している場合は取り除いてください。

〈守らないと〉

火災を引き起こすおそれがあります。



警告

坂道、アユミ板の上での変速禁止

適正な変速段を選択し、坂道やアユミ板の上では主クラッチを切ったり変速をしないでください。

〈守らないと〉

事故を引き起こすおそれがあります。



注意

エンジン始動時は周囲の安全を確認する

エンジンを始動する際は主クラッチが「切」、主変速が「中立」になっていることを確認してください。

リコイルの引き方向に人や障害物、突起物がないか確認してください。

また、周囲に人を近付けしないでください。

〈守らないと〉

傷害、事故を引き起こすおそれがあります。



安全に作業するために



注意

発進、作業時は以下のことに注意してください
車速の最低速で主クラッチの「入」はゆっくり行い、「切」は素早く操作できるよう習熟した上で使用してください。
小走りになるようなスピードを出したり、急発進、急旋回を行わないでください。

〈守らないと〉

事故を引き起こしたり、傷害を負うおそれがあります。



警告

移動する際はロータリを停止させる
移動するときはロータリクラッチレバーを「切」にしてください。

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。



警告

運搬には天井のない車を使用する
運搬には荷台に天井のない車を使用してください。積み降ろしをする時は荷台の上ではエンジンを切ってください。

〈守らないと〉

ハンドルと天井にはさまれたり、転落したりして傷害を負うおそれがあります。



警告

積み降ろしに用いるアユミ板は機体重量に十分に耐え、滑り止めのついたものを使用し確実に固定してください。
荷台の高さが「1」に対しアユミ板の長さが「4以上」になるものを使用してください。
積み降ろしは平坦な場所で行い周囲に人や障害物がないことを確認し、最低速で移動し、途中で主クラッチを切ったり変速操作を行わないでください。

〈守らないと〉

転落などの事故を引き起こすおそれがあります。



注意

格納するとき
機体に保管用シートを掛ける場合は、マフラーやエンジンが充分冷えてから掛けてください。
火災予防のため、ワラ・草等可燃物のある場所での保管はしないでください。

〈守らないと〉

火災事故を引き起こすおそれがあります。



注意

夜間作業の禁止
本機には夜間作業灯を装備していませんので夜間作業を行わないでください。

〈守らないと〉

事故を引き起こしたり、傷害を負うおそれがあります。

廃棄物の処理

廃油やゴム類、その他の有害物を廃棄または焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者に相談して、所定の規則に従って処理してください。

〈守らないと〉

みだりに捨てたり、焼却すると法令により処罰されることがあります。



安全に作業するために

警告ラベルと貼り付け位置(ラベルの絵は原寸ではありません)

①品番 238110000609000

②品番 238110000610000

警告

傷害事故防止のため取扱説明書を読んで正しい取扱いをし、機械の運転操作、特に主クラッチは未早く切れるようよく練習し、じょうぶに慣れたから作業すること。

<始動時>

- ◆主クラッチを切り変速を中立にすること。
- ◆前後左右に人がいないことを確認すること。

<運転時>

- ◆坂道、狭道、積込み積降ろし、はりの出入り、畦の乗り越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと。
- ◆後進時は主クラッチをいつでも切れるようハンドルを下げ遅い車速で後進すること。
- ◆周囲に人を近づけないこと。

<点検・整備時>

- ◆エンジンを止め高温部が冷めてから行うこと。

LNK01-47211

警告		やけどをしますので、マフラに触れないこと。		傷害事故防止のため、積込み積降ろし、はりの出入りの際は、 ◆操向クラッチレバーを切らないこと。 (操向クラッチレバーのみ) ◆主クラッチレバーを切らないこと。 ◆変速の操作を行わないこと。 ◆上りは前進、下りは後進で遅い車速で進むこと。		後方に機械を移動する時は ◆履板の低いハウス内や車の荷台ではエンジンを停止して、手で移動させること。 ◆溝や壁などの障害物がないことを確認すること。
		室内換気の悪い所で使用しないこと。				

LNK01-47221

③品番 238110000617000

警告

ガソリン 火気厳禁
火災の恐れがあるので給油時はエンジンを停止すること。 LNK01-47241

④品番 011452372551000

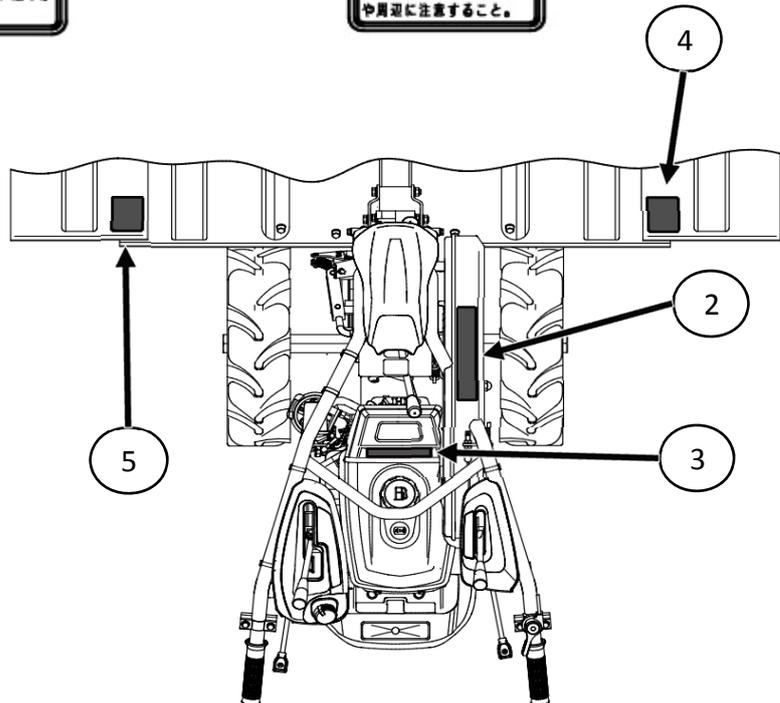
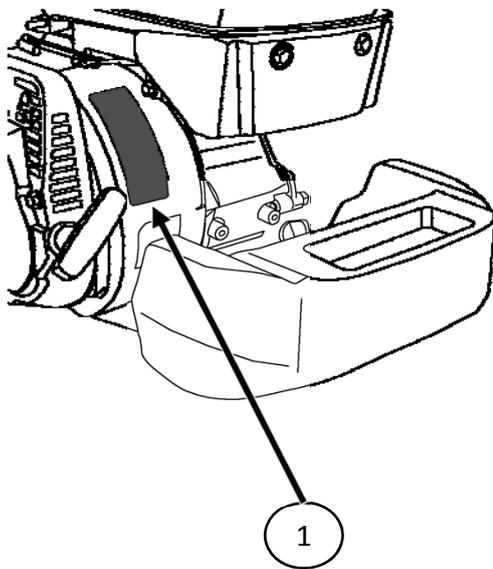
警告

ロータリの回転部に接触すると、ケガをさせるおそれがあるので、回転物に近づかないこと。

⑤品番 008171870552000

警告

作業中は石などの飛散により、人にケガをさせるおそれがあるので、機体の前方や周辺に注意すること。



表示ラベルの手入れ

- ラベルは、いつでもきれいにして傷つけないようにしてください。もしラベルが汚れている場合は、石鹸水で洗い、柔らかい布で拭いてください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼り替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は、貼り付け面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。
- ラベルが貼り付けられている部品を新品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

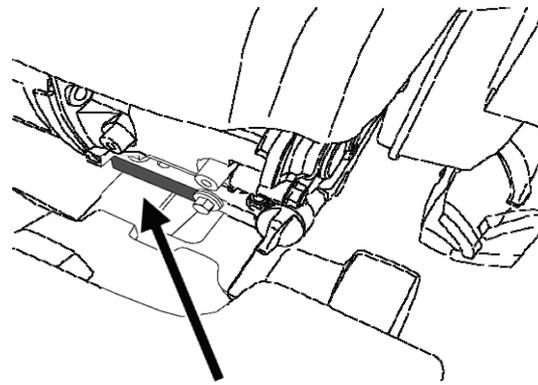
サービスと保証について

この製品には、保証書が添付してありますので、ご使用前によくご覧ください。

■アフターサービスについて

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買上げの販売店又は直接当社にお気軽にご相談ください。

- その際
- (1) 型式名
 - (2) 車台番号(製造番号)
 - (3) エンジン番号
 - (4) 故障内容(できるだけ詳しく)
 - ・どのような作業をしていましたか
 - ・どのくらい使用しましたか
 - (アール、又は時間)

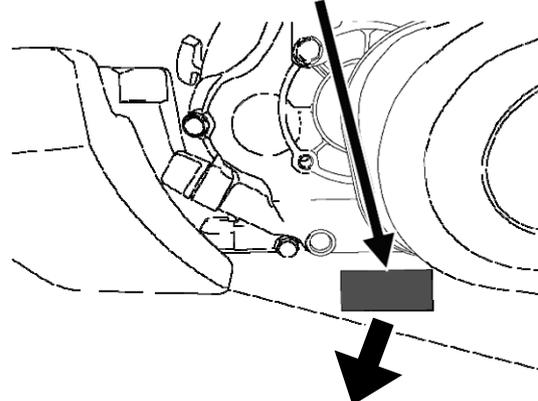


エンジン番号

警告

機械の改造はしないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか、人身事故につながる恐れもあります。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる使用を行った場合は、メーカー保証の対象外になりますのでご注意ください。

車体番号



農業機械の種類	農用トラクター(歩行型)
型式名	KMR70
区分	
搭載型式名	GB181LN
機関連続定格出力	3.4kW(4.7PS)/1800rpm
製造番号	
製造元：関東農機株式会社	
MADE IN JAPAN	

■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期限)は製造打ち切後9年といたします。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

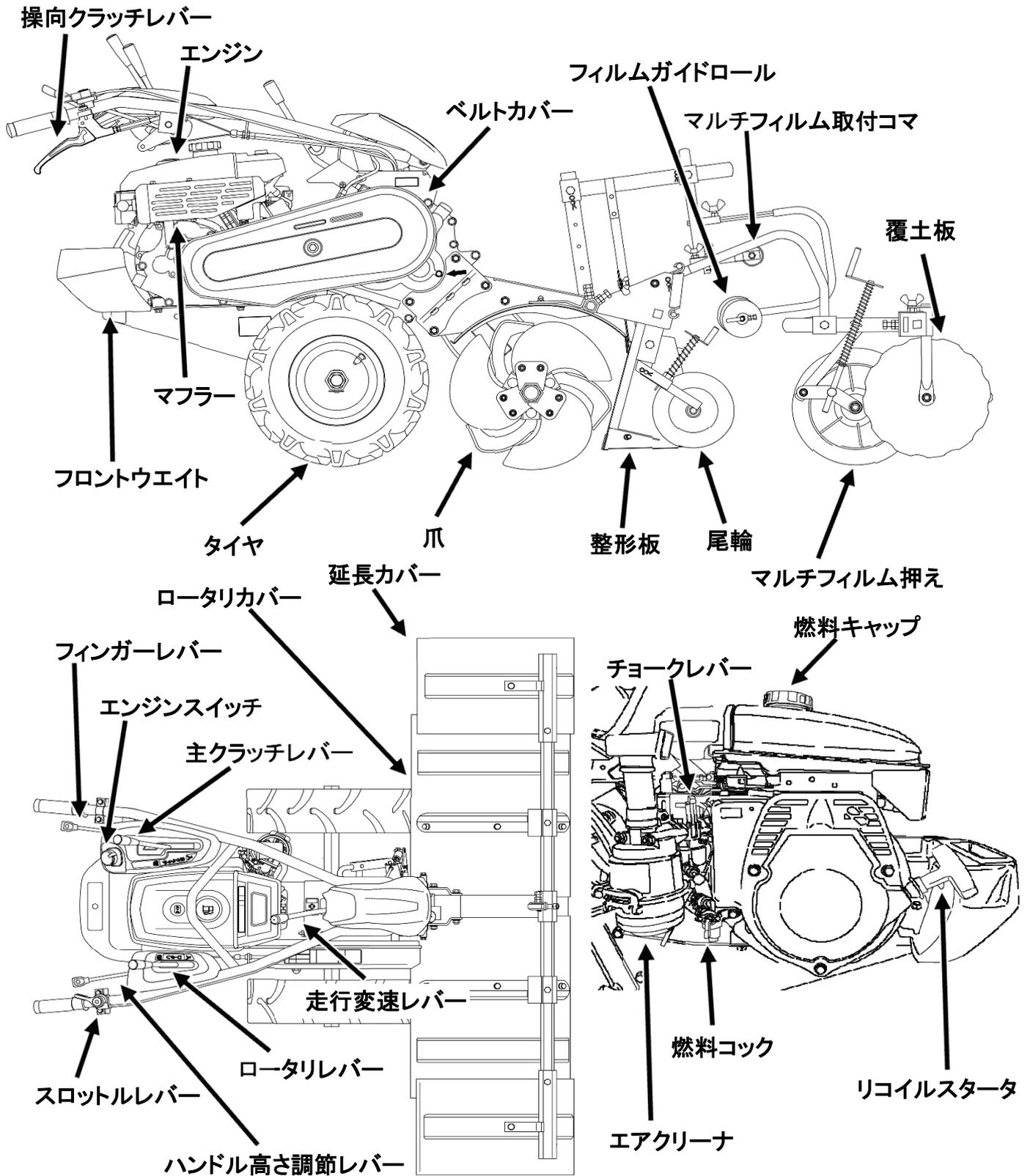
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

警告

トレーラを牽引しての走行はできません。小型特殊自動車の認定を受けておりません。トレーラを牽引して一般公道を走行すると道路運送車両法に違反します。

各部の名称と装置の取扱い

装置の名称



各部の名称と装置の取扱い

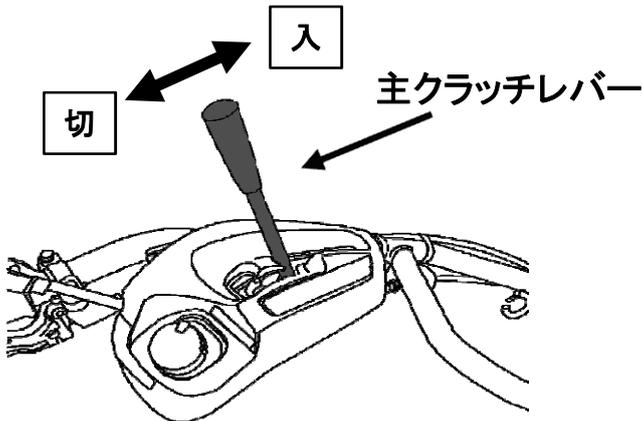
各部の名称とはたらき

■主クラッチレバー



注意

- ※ 傾斜地などは、ハンドルが持ち上がり危険な場合がありますので、主クラッチレバーをゆっくり操作してください。
- ※ 狭い場所などの運転についてはエンジンの回転を低速にし、後方や上方などまわりの安全を確かめ、ゆっくりと主クラッチレバーを操作してください。



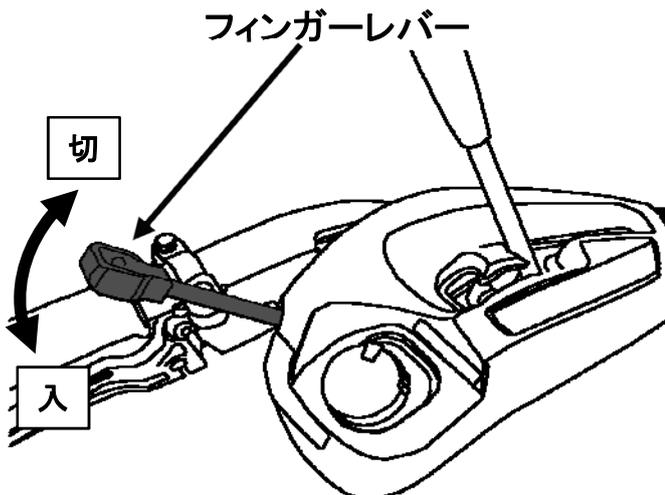
エンジンからの動力を断続します。

1. レバーを[入]の位置にするとクラッチが入ります。
2. レバーを[切]の位置にするとクラッチが切れます。

■フィンガーレバー

主クラッチレバーとフィンガーレバーは連動していますので、どちらでもクラッチ操作ができます。

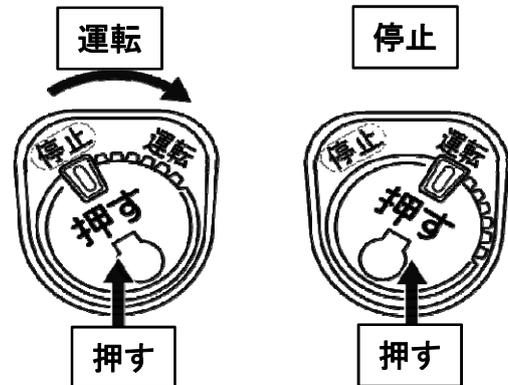
1. レバーを押下げるとクラッチが[入]になります。
2. レバーを押上げるとクラッチが[切]になります。



■エンジンスイッチ

エンジンの始動・停止に用います。

1. スイッチを押しながら[運転]の位置に回すと始動が可能な状態になります。
2. スイッチを押すと左に回って[停止]の位置に戻り、エンジンが停止します。



補足

- ※ 非常時にはエンジンスイッチを押してください。エンジンが停止します。

■リコイルスタータ

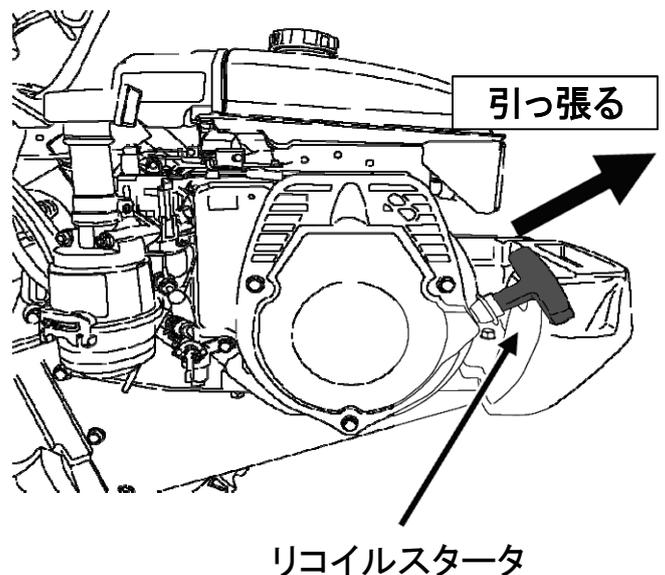


注意

- ※ リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。

エンジンを始動します。

主クラッチレバーを[切]にし、エンジンスイッチを運転に合わせリコイルを引っ張ると始動します。

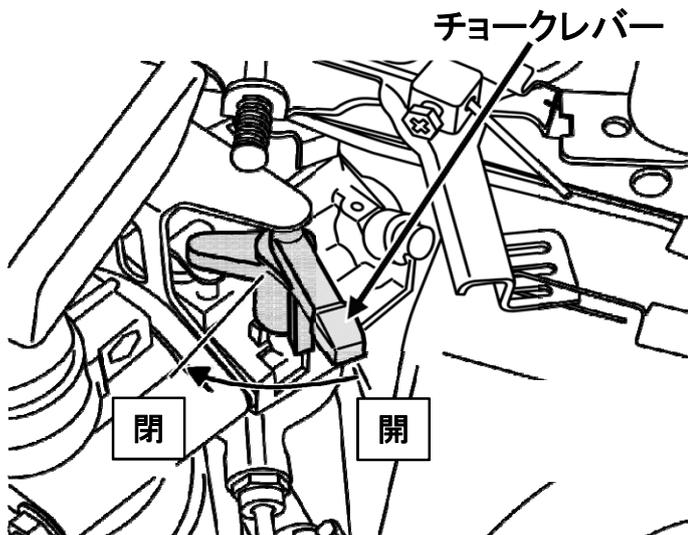


各部の名称と装置の取扱い

■チョークレバー

エンジンがかかりにくい時に使用します。

1. 始動時・・・[閉]の位置にレバーを切り替えます。
2. 始動後・・・[開]の位置にレバーを切り替えます。

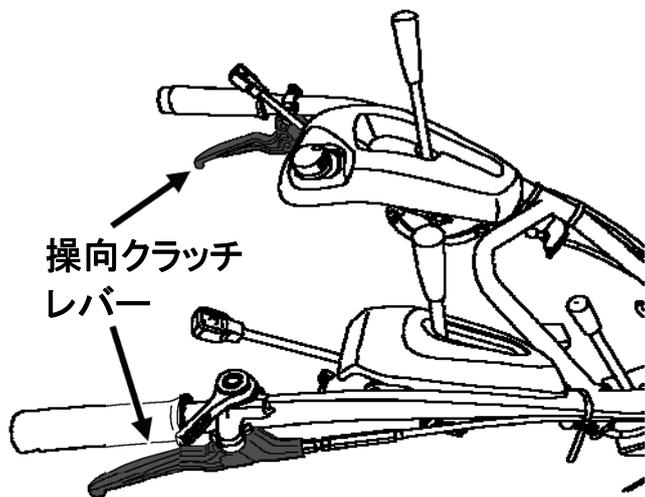


■操向クラッチレバー



警告

※ 車両への積み降ろし時や坂道では、絶対に操作しないでください。



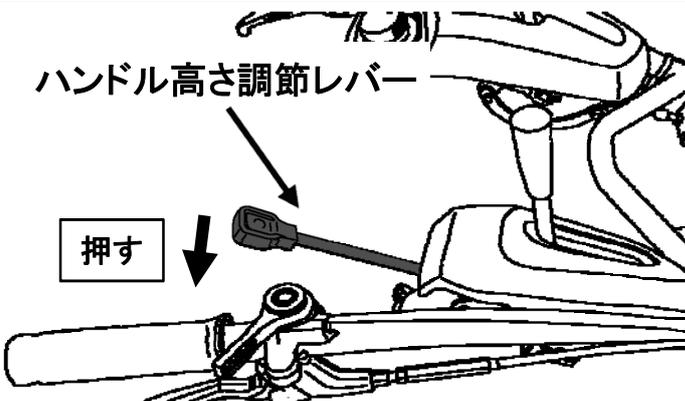
- 右側のレバーを握る・・・右側に旋回します。
- 左側のレバーを握る・・・左側に旋回します。

■ハンドル高さ調節レバー



警告

- ※ 走行時・作業時・・・危険のため操作はしないでください。
- ※ 操作するときは必ず主クラッチを切り、周囲を確認すると共にゆっくり操作し、操作後はハンドルが確実に固定されているか確認してください。



ハンドルの高さは6段の調節ができます。

1. ハンドル高さ調節レバーを押すと、ハンドルが上下に自由に動きます。
2. ハンドル高さ調節レバーを離すと固定されます。このときハンドルが固定されていることを確認してください。

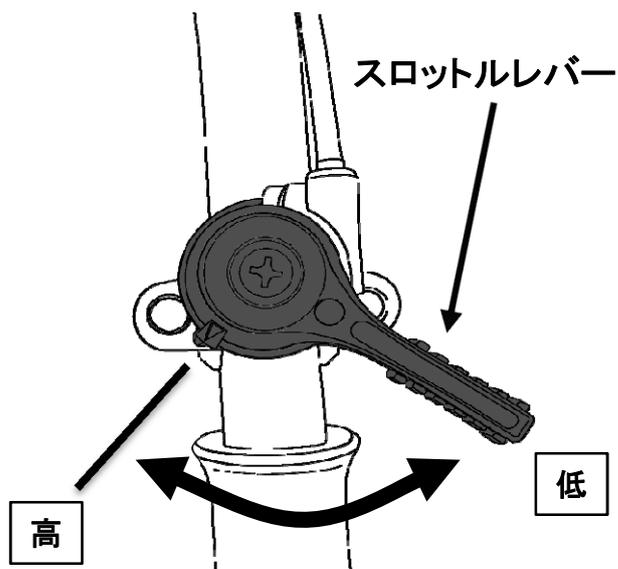
補足

※ ハンドルを少し持ち上げた状態で、レバーを押してください。

■スロットルレバー

エンジン回転数を操作します。

1. 低……………エンジン回転数低速
2. 高……………エンジン回転数高速

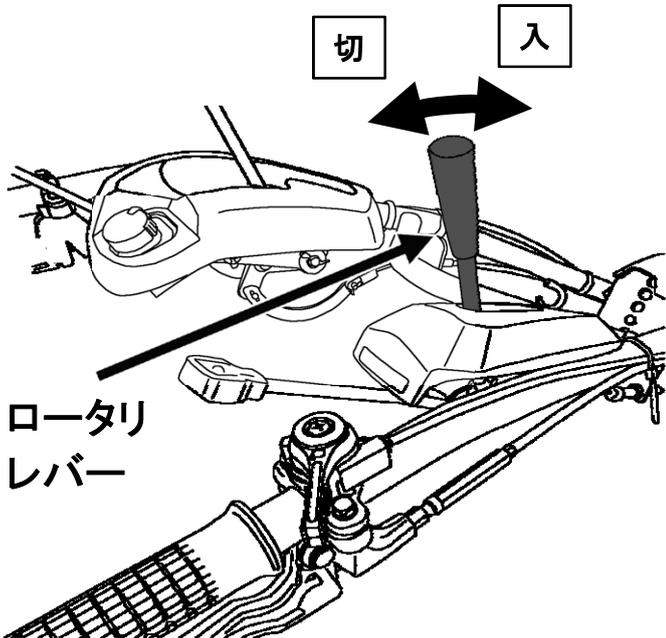


各部の名称と装置の取扱い

■ロータリーレバー

ロータリーに伝わる動力を断続します。

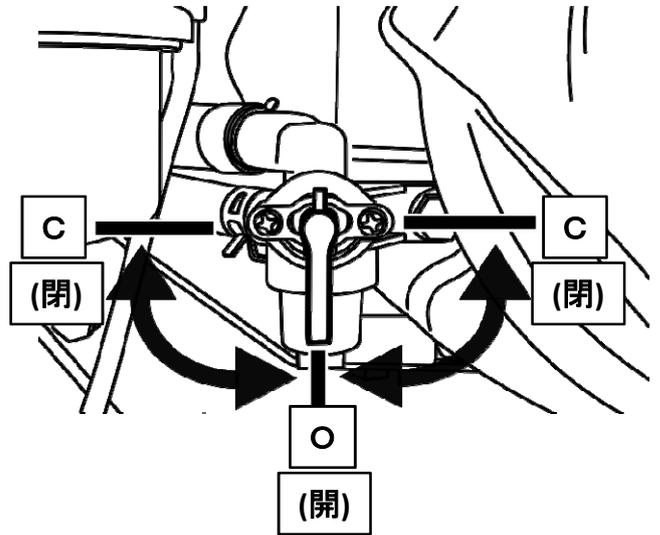
1. レバーを[入]の位置にすると、ロータリーへの動力が入り、回転します。
2. レバーを[切]の位置にすると、ロータリーへの動力が切れ、回転が止まります。



■燃料コックレバー

燃料タンクからエンジンへの燃料の[供給]・[停止]をします。エンジン停止後、必ず燃料コックを閉めます。

1. [c](閉)・・・燃料停止
2. [o](開)・・・燃料供給



■重要

- ※ コックを開いた状態で、前に倒したり車両で運搬すると、エンジン始動が困難になる場合があります。

■燃料キャップ



警告

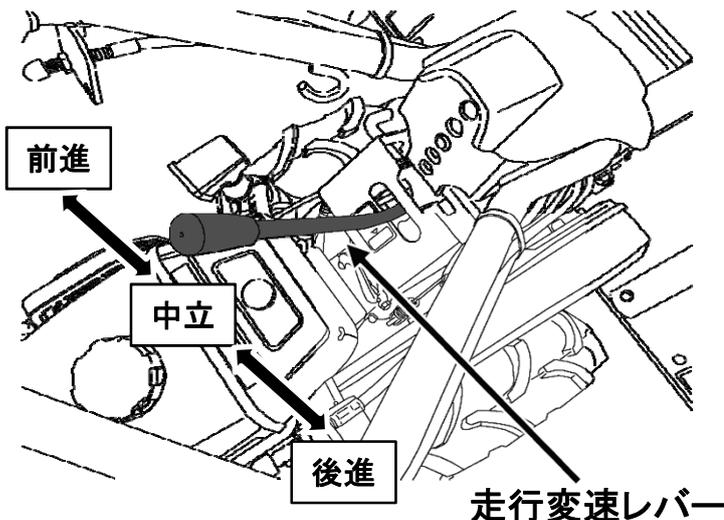
- ※ 給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラーがじゅうぶんに冷えてから行ってください。
- ※ 火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
- ※ 燃料がこぼれたときはきれいにふきとってください。
- ※ 給油後、燃料キャップはガソリンがもれなようにしっかり締めてください。
- ※ 上記の作業をおこたると、爆発・火災のおそれがあります。

■走行変速レバー



警告

- ※ エンジンを始動する前に、必ずレバーを[中立]の位置にしてください。
- ※ 変速操作は主クラッチを[切]の位置にしてから行ってください。
- ※ 走行中に変速しないでください。



自動車用レギュラーガソリンを使用します。

燃料の種類	規定容量
自動車用レギュラーガソリン	3.0L

■重要

- ※ 燃料タンク内にゴミや水及びその他異物が混入しないように、注意してください。

■マフラー



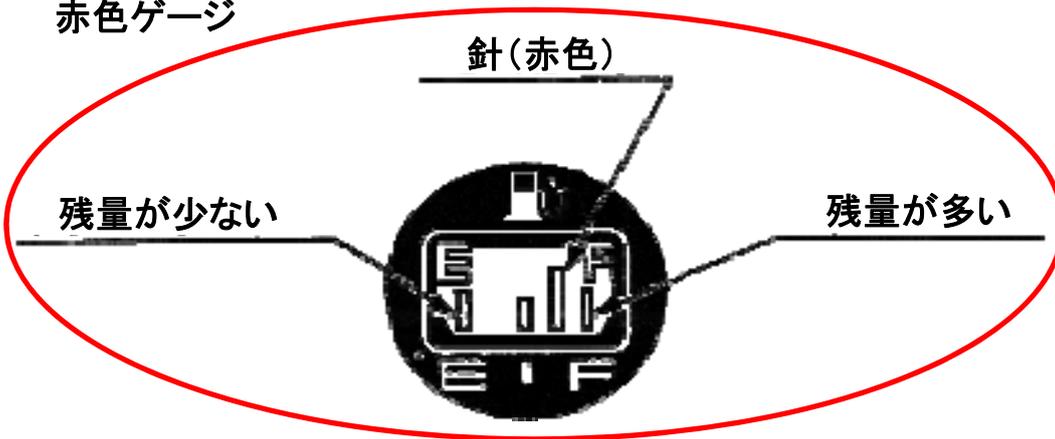
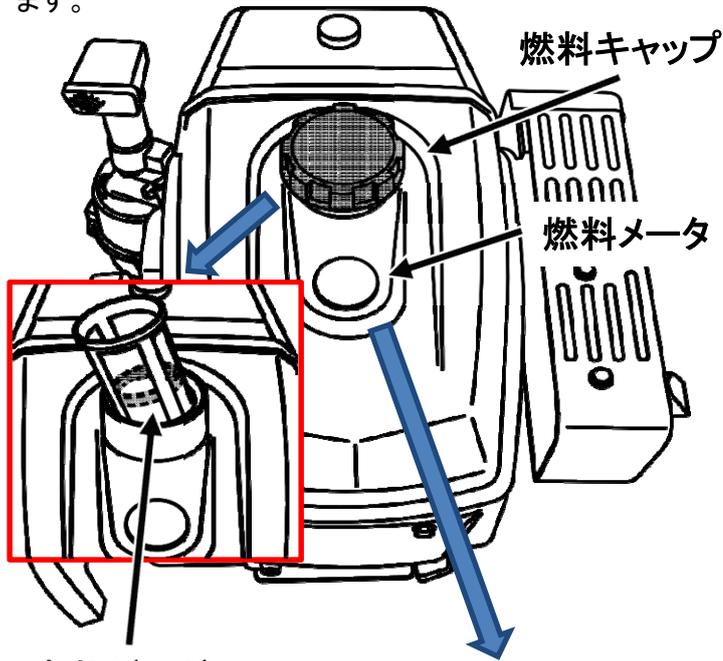
注意

- ※ マフラーに手をふれないでください。ヤケドをするおそれがあります。

各部の名称と装置の取扱い

■燃料メータ

- 燃料メーターが[E]の位置になりましたら、燃料を補給してください。
- 燃料キャップから自動車用レギュラーガソリンを給油します。

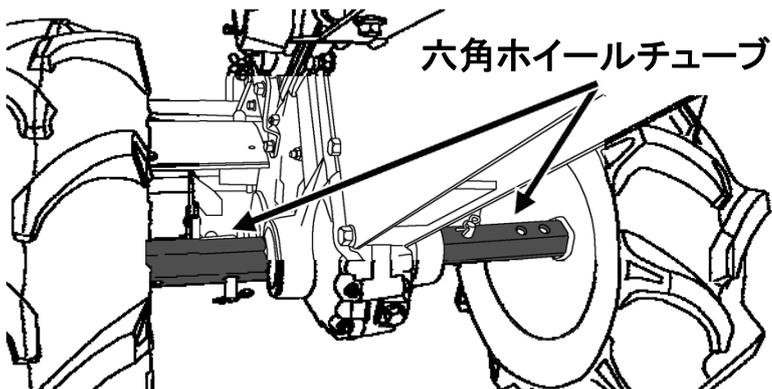


補足

※給油口の赤色ゲージ以上に燃料を入れないでください。

■六角ホイールチューブ

作業に応じて輪距の調節ができます。



作業前の点検



注意

- ※ 平坦な場所に機械を安定させて点検してください。
- ※ 点検はエンジンを停止させ、エンジンやマフラーがじゅうぶんに冷えてから行なってください。

調子よく作業するために

(詳細は15～27ページの[簡単な手入れと処置]の項を参照)



警告

- ※ 給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラーがじゅうぶん冷えてから行ってください。
- ※ 火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
- ※ 燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
- ※ 燃料は規定量(赤色ゲージ)以上入れないでください。
- ※ 給油後、燃料キャップはガソリンがもれないようにしっかり締めてください。
- ※ 上記の作業をおこたると、爆発・火災のおそれがあります。

重要

- ※ 各給油箇所には工場から出荷のときオイルが入っていません。下表に従い給油してください。

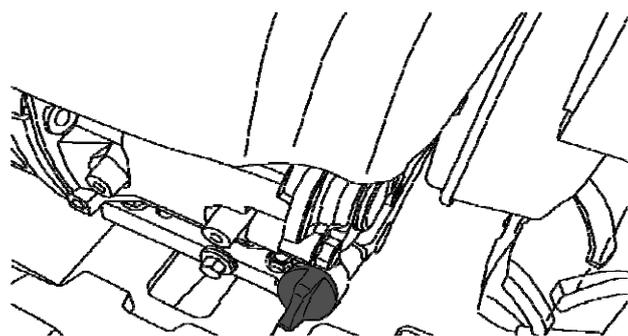
給油箇所	種類	容量
エンジン(GB181LN-337)	エンジンオイル	0.55L
燃料タンク	自動車用無鉛レギュラーガソリン	3.0L
ミッションケース	ミッションオイル	4.20L

※エンジンオイル……………10W-30

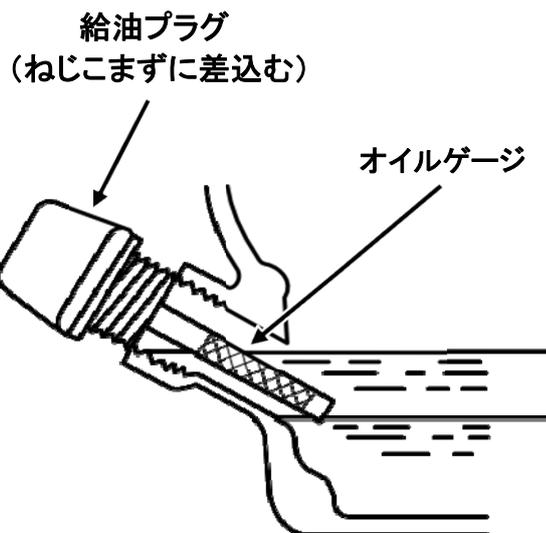
※ミッションオイル……………#90

◆エンジンオイル

- エンジンを水平にして給油し、オイルゲージで規定量あるか確認します。
- 不足している場合、エンジンオイル10W-30を補充します。(ガソリンエンジン用)
- ※ オイルゲージはねじ込まずに使用します。
- ※ 出荷時にオイルは抜取っておりますが、構造上抜ききれないオイルが内部に残存しています。0.55L給油しようとする場合とあふれる場合がありますので、オイルゲージの規定容量を目安に給油してください。



給油口
(エンジンオイル点検)



給油プラグ
(ねじこまずに差込む)

オイルゲージ

油量上限

油量下限

作業前の点検

◆ミッションオイル

- ミッションケースの上部に設けてある、給油口よりミッションオイルを規定量給油してください。
- 機体(エンジン)を水平にして検油口よりオイルが流れ出れば規定量です。
- 不足している場合にはミッションオイルを入れます。

◆エアクリナー

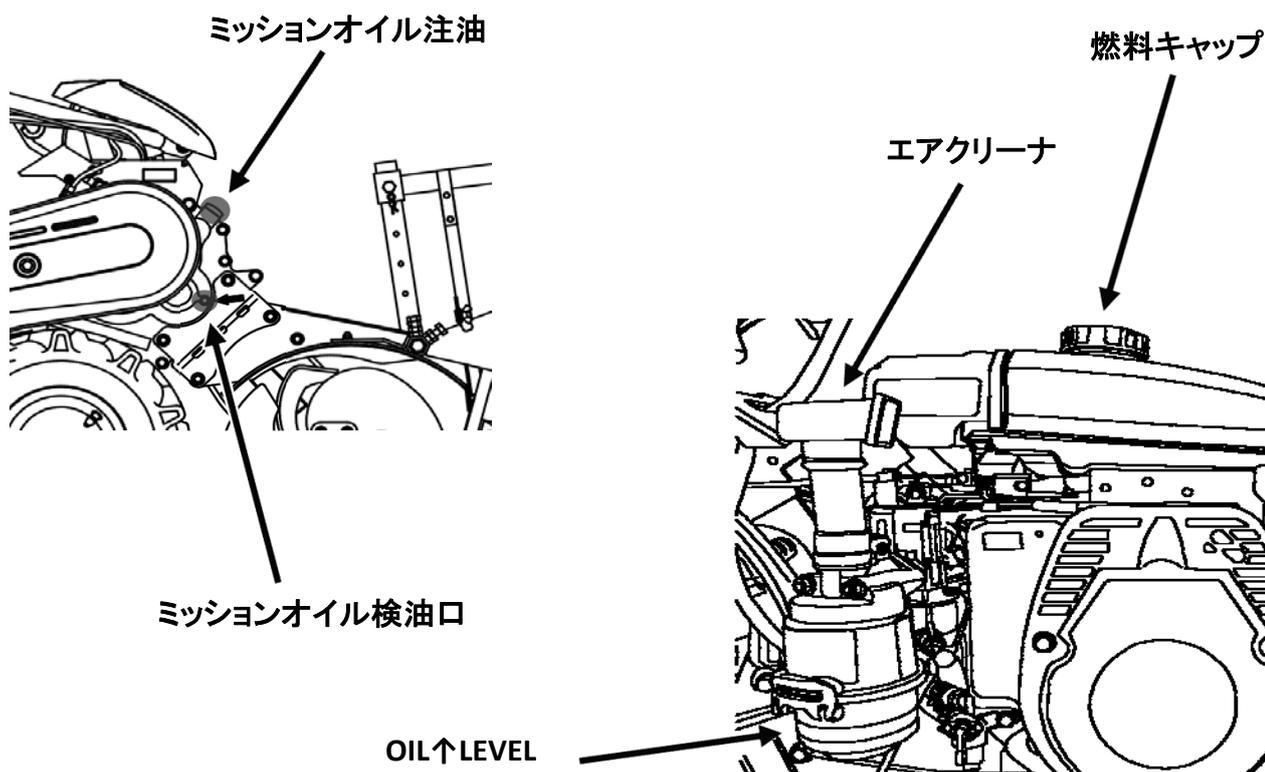
- エアクリナーにオイルを入れます。(エンジンオイルSC級以上)
- エンジンオイルをOIL ↑ LEVELまで入れてください。
- エアクリナーエレメントにゴミが付着していないか点検します。

◆燃料

- 機体(エンジン)を水平にして燃料を入れてください。
- 自動車用レギュラーガソリンを補給します。
- タンク容量・・・約3.0L(赤色ゲージ以下にします)

◆その他

- エンジン、ミッションなどから油漏れがないか点検します。
- 各しゅう動部へグリスを塗布します。
- 各部の破損及びボルト・ナットのゆるみがないか点検します。



安全に作業するために

◆主クラッチレバー・走行変速レバー・ロータリレバー

- クラッチの[入]・[切]が確実にできるか点検します。
- 不良の場合は調整します。

◆エンジン周辺部

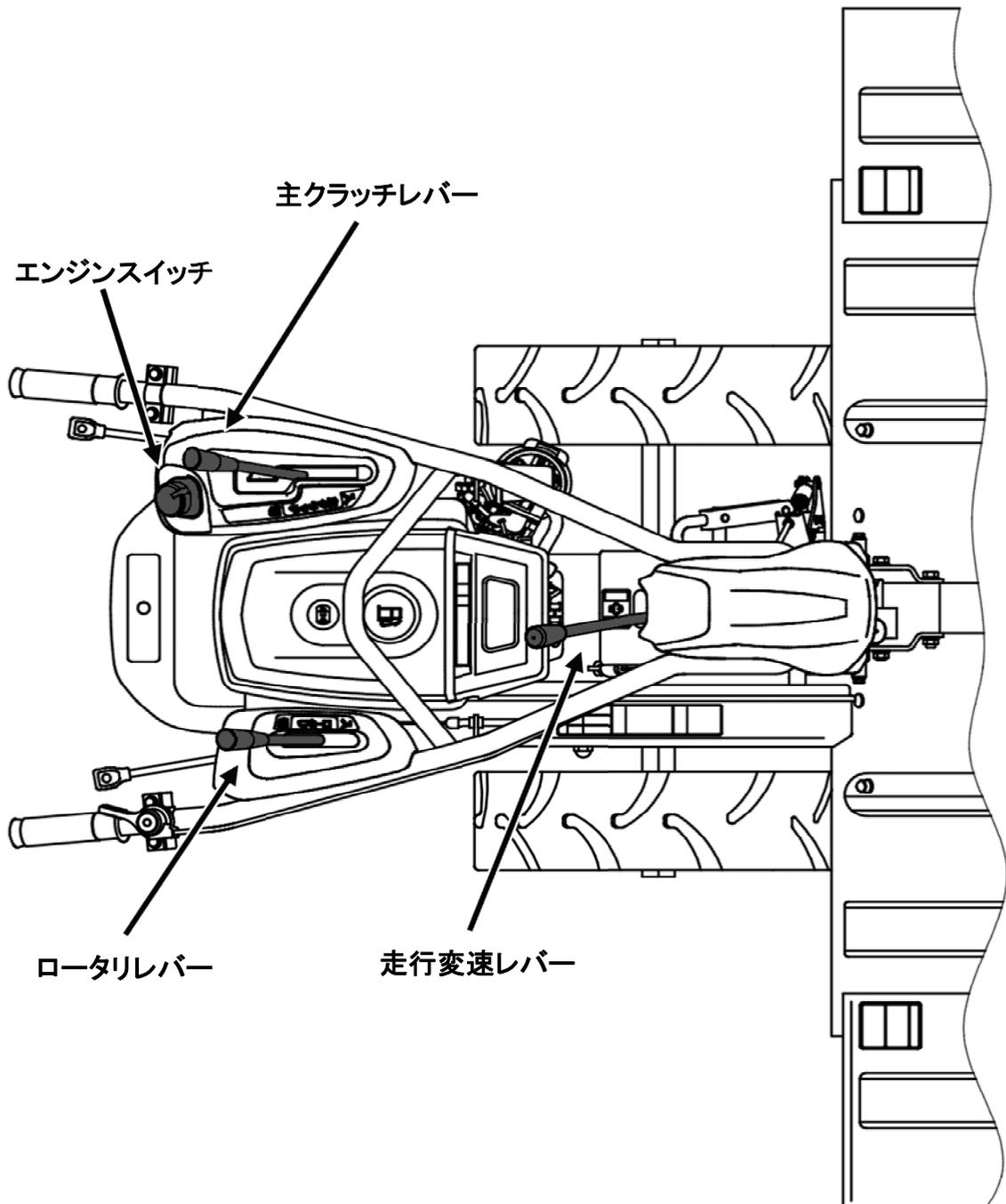
- ファンカバーやマフラカバー内にゴミやワラクズの付着がないか点検します。

◆ガソリンもれ

- タンクや燃料パイプからガソリンもれがないか点検します。もれがある場合は、販売店に修理点検を依頼して使用を控えて下さい。

◆エンジンスイッチ

- エンジンの始動、停止が確実にできるか確認します。エンジンが停止しない場合無理に停止しようとせずご購入になった販売店までご連絡ください。



運転のしかた

新車時の扱いかた

■ならし運転(最初の10時間まで)

この期間中は各部になじみをつけるため、エンジンを高速回転させたり、過酷な使用はさけ無理をさせないようにしてください。

エンジンの始動と停止のしかた

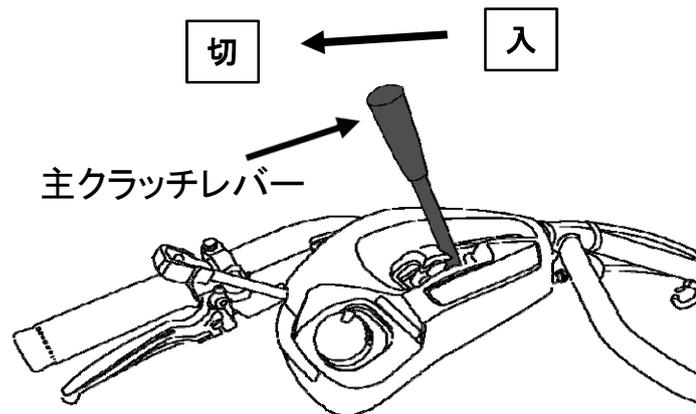
■始動のしかた



注意

- ※ マフラーの排気口方向に、燃えやすい物を置かないでください。火災が発生する原因になります。
- ※ リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。
- ※ エンジンの運転中は、危険ですからマフラーやその他の操作レバー以外の物には、触れないでください。ヤケドや傷害のおそれがあります。
- ※ 夜間作業はしないでください。
- ※ エンジンを始動するときは、主クラッチレバーを必ず[切]にしてください。

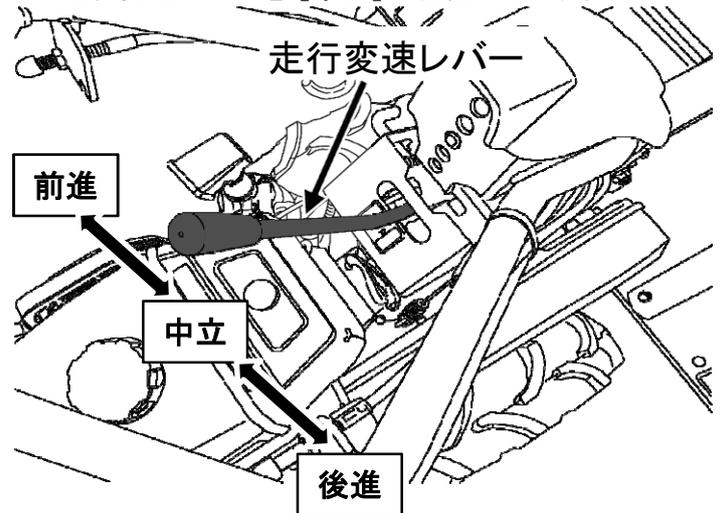
1. 主クラッチレバーを[切]の位置にします。



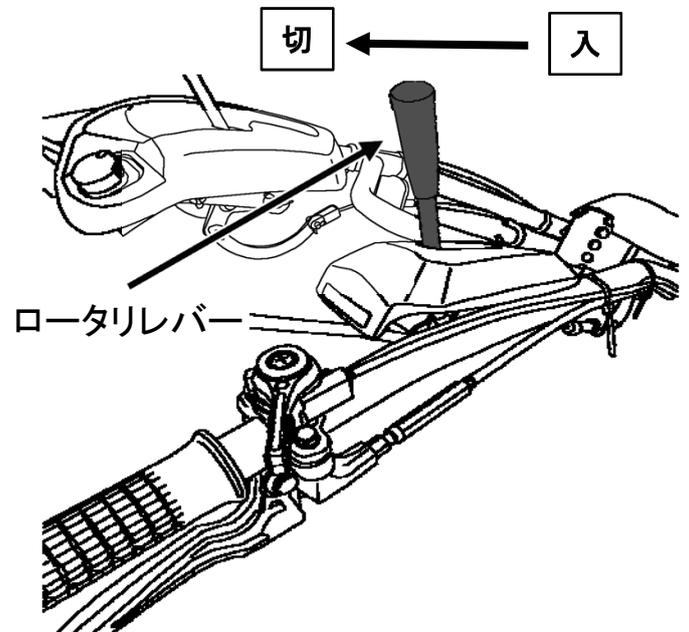
補足

※ 主クラッチレバーが[入]の位置では始動ケンセイ装置が作動してエンジンが始動しません。

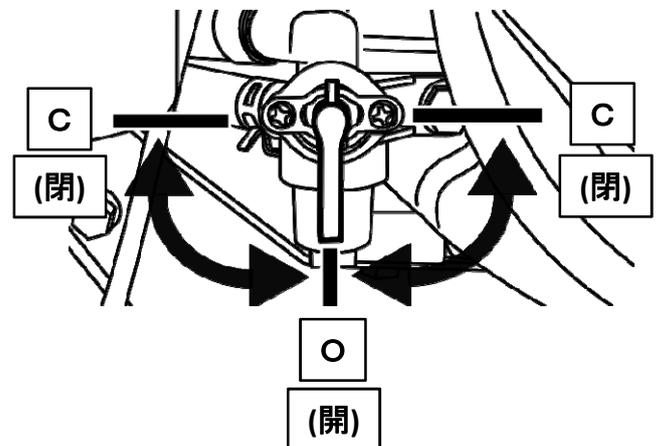
2. 走行変速レバーを[中立]の位置にします。



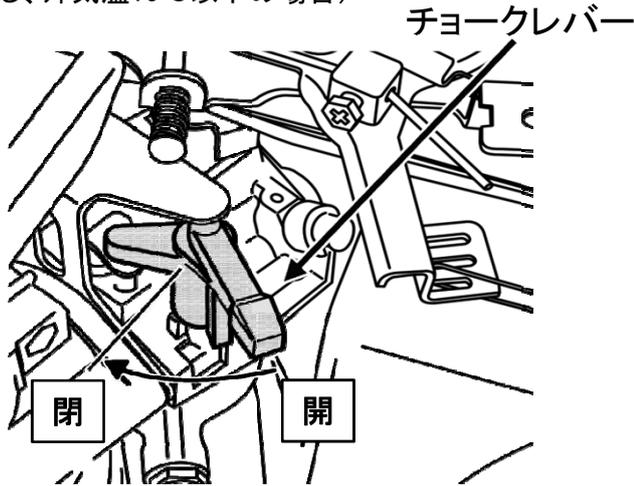
3. ロータリレバーを[切]の位置ににします。



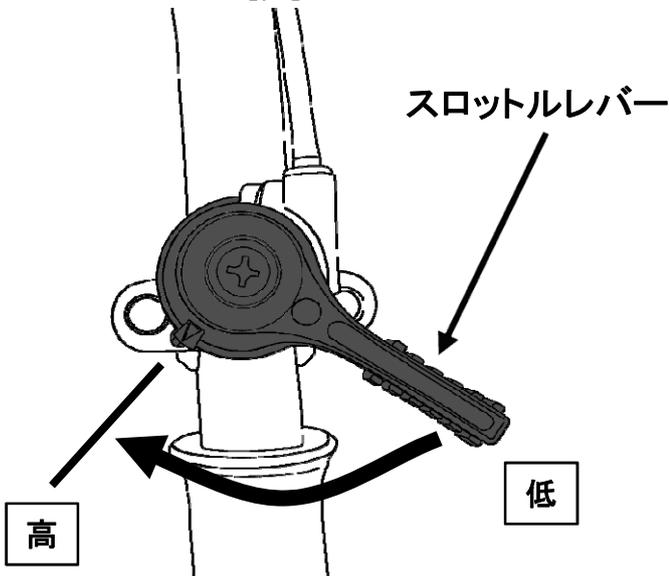
4. 燃料コックを[O] (開)の位置にします。



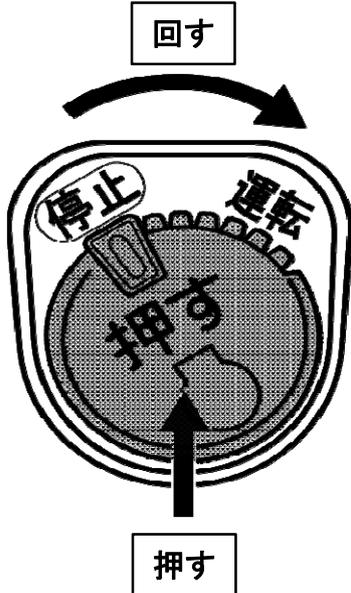
5. チョークレバーを[閉]の位置に切り替えます。
(但し、外気温15°C以下の場合)



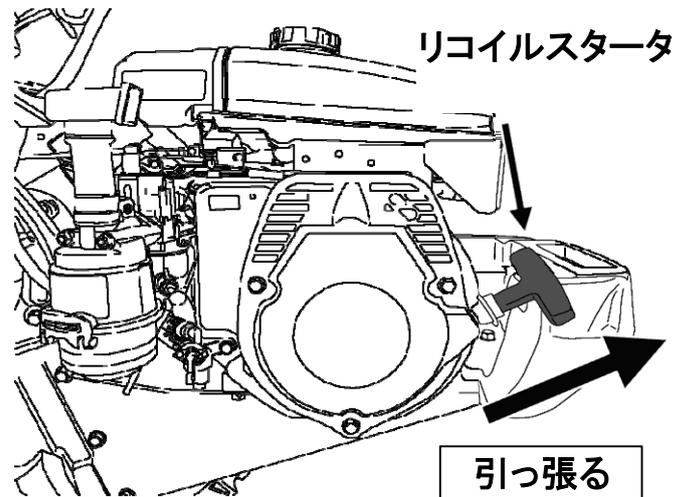
6. スロットルレバーを[高]の位置にします。



7. エンジンスイッチを押しながら[運転]の位置まで回します。



7. リコイルスタータハンドルを握って、引っ張ります。
エンジンが始動したら、リコイルスタータハンドルを静かに元に戻します。



8. チョークレバーを[閉]の位置でエンジン始動した場合は、エンジンの運転状態を確認しながら、チョークレバーを徐々に[開]の位置に戻します。

9. 2~3分暖機運転をしてから、作業を始めて下さい。

重要

※ 運転中はリコイルスタータを引かないでください。

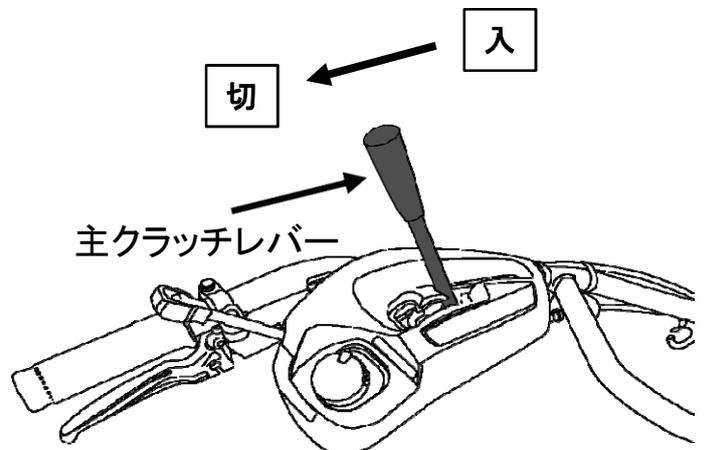
■ 停止のしかた



警告

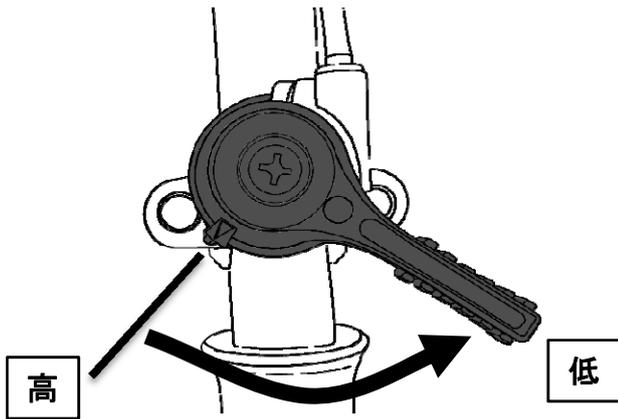
※ 停止後はしばらくマフラーが熱くなっています。手を触れないでください。ヤケドのおそれがあります。

1. 主クラッチレバーを[切]の位置にします。

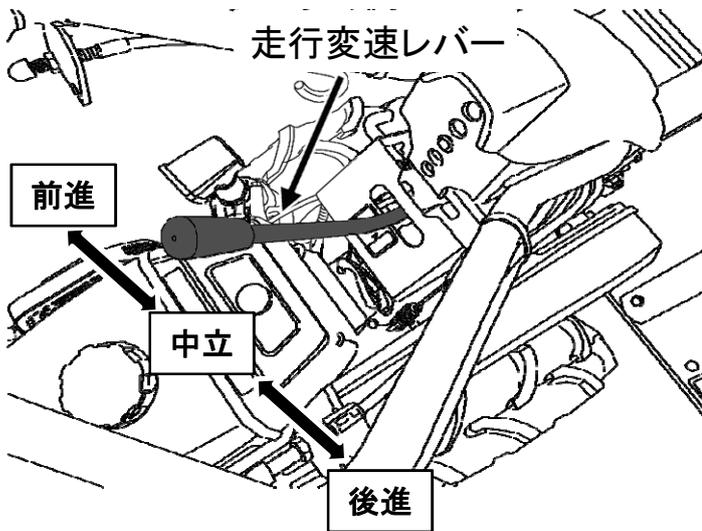


運転のしかた

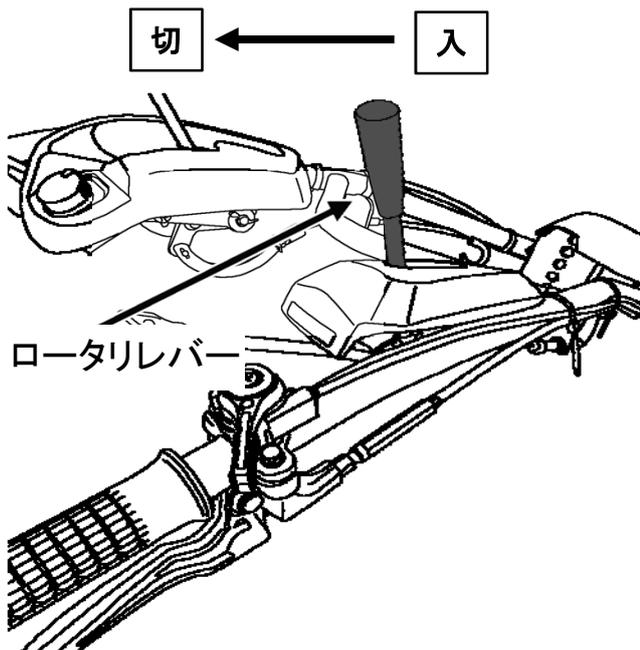
2. スロットルレバーを[低]の位置にします。



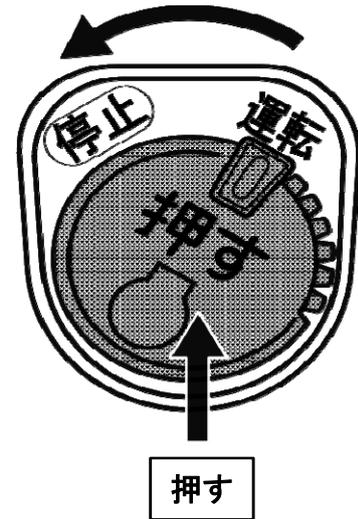
3. 走行変速レバーを[中立]の位置にします。



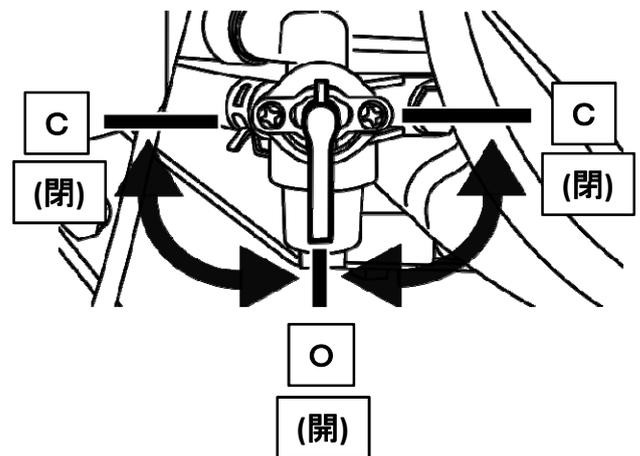
4. ロータリレバーを[切]の位置にします。



4. エンジンスイッチを押すと左に回って[停止]の位置に戻り、エンジンが停止します。



5. 燃料コックを[C] (閉)の位置にします。



重要
 ※ コックを開いたままの状態での保管したり、車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難となる場合があります。また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

発進のしかた



警告

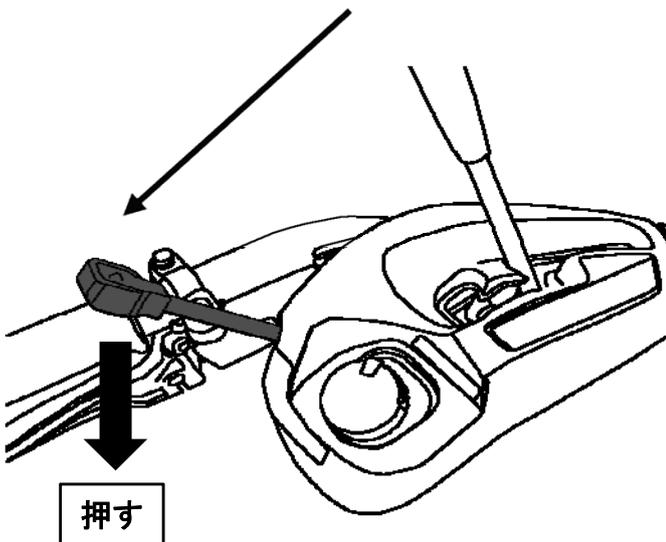
- ※ 運転中は周囲に人を近づけないでください。傷害事故のおそれがあります。
- ※ 傾斜地での運転や後進するときなどは、ハンドルが持ち上がり、体や首がはさまれるおそれがありますので、主クラッチをゆっくり操作してください。
- ※ 狭い場所での運転については、エンジンの回転を低速にし、後方や上部などまわりの安全を確かめてゆっくりと主クラッチ操作をしてください。

1. 主クラッチレバーが[切]の位置にあることを確認した後、進みたい方向に応じて、走行変速レバーを[前進]または[後進]の位置にします。
2. 主クラッチレバーを[入]にすると発進します。

補足

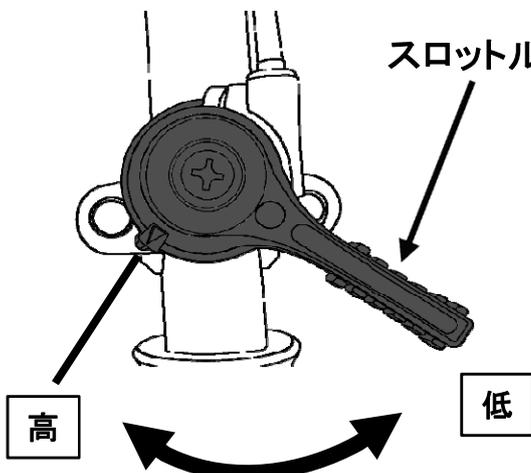
- ※ フィンガーレバーを下に押すと、ハンドルを握ったまま主クラッチを入れることができます。

フィンガーレバー



3. スロットルレバーを操作して速度を調節します。

スロットルレバー



作業のしかた

上手な作業のしかた

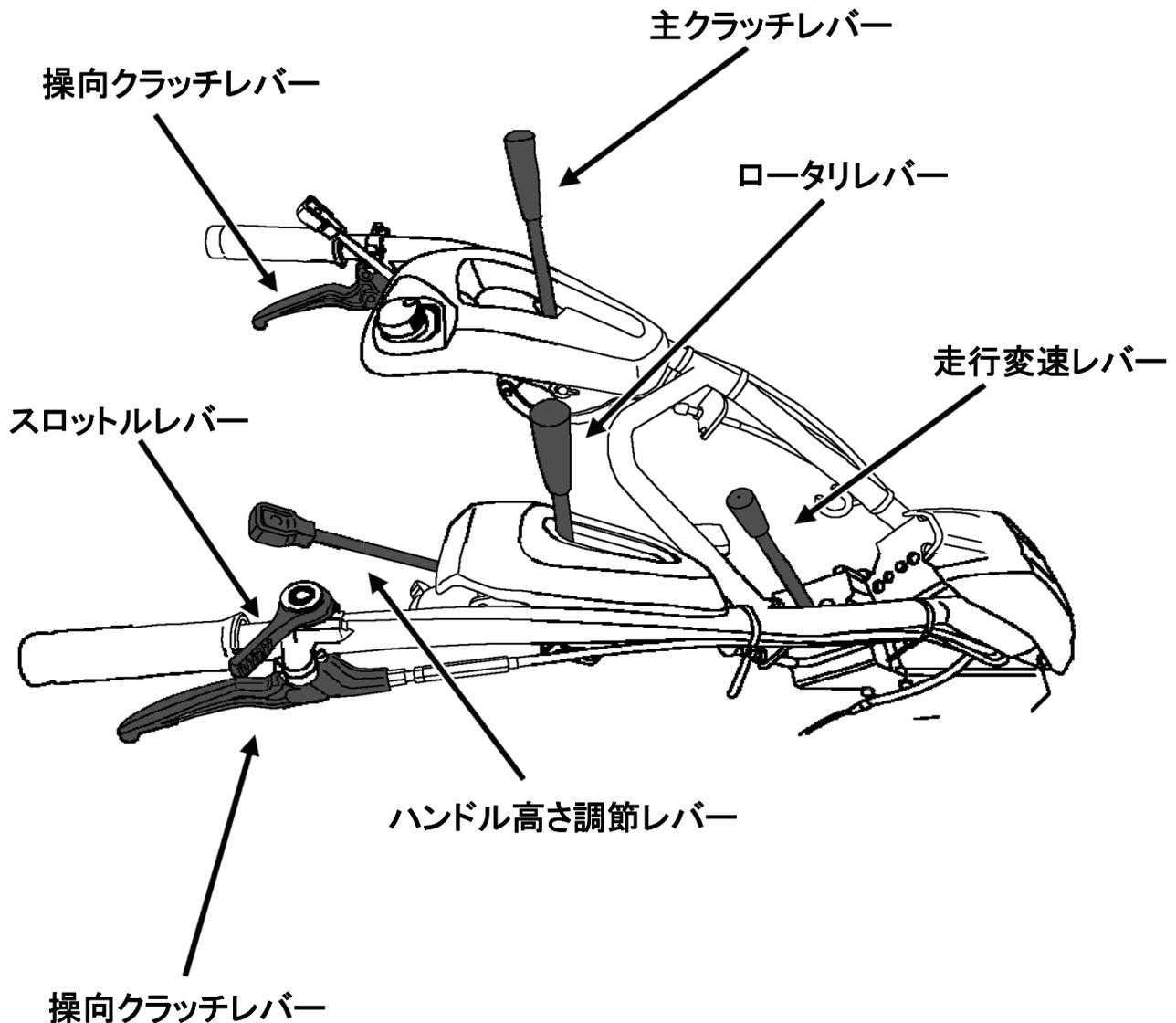
下記操作手順を守り安全作業を心掛けてください。

■耕うん作業手順(作業場所までの移動は10～13ページの[運転のしかた]を参照してください)

1. 主クラッチレバーを[切]の位置にします。
2. ハンドル高さ調節レバーを押し、作業しやすい位置にハンドル高さを調節します。
3. 走行変速レバーを[後進]の位置にします。
4. スロットルレバーを操作してエンジンの回転数を上げます。
5. ロータリレバーを[入]の位置にします。
6. 主クラッチレバーをゆっくり[入]の位置にし、発進してください。
7. スロットルレバーを操作し、速度やロータリ回転数を調節します。
8. 走行変速レバーの操作を行うときは、必ず主クラッチレバーを[切]の位置にしてから行なってください。

■旋回手順

1. ロータリレバーを[切]の位置にしてください。
2. スロットルレバーを[低速]の位置にしてください。
3. ハンドルを押し上げ、ロータリを地面から離します。
4. 曲がりたい方向の操向クラッチレバーを握り、旋回します。
5. 旋回後、操向クラッチレバーを離し、スロットルレバーで再度エンジン回転を調整します。
6. ハンドルを持上げ、ロータリを地面に接地させ、ロータリレバーを[入]の位置にして作業を行います。



■ 畦立ての調節

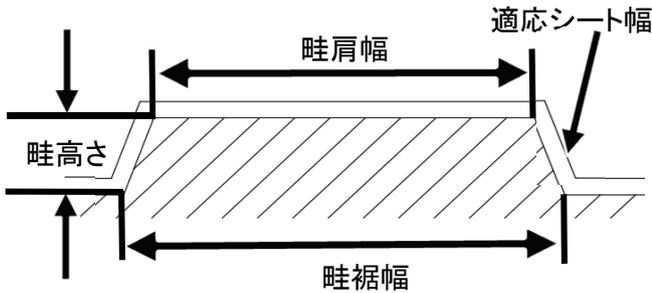


警告

※ 畦の高さ調節時は、エンジンを必ず停止してください。傷害事故のおそれがあります。

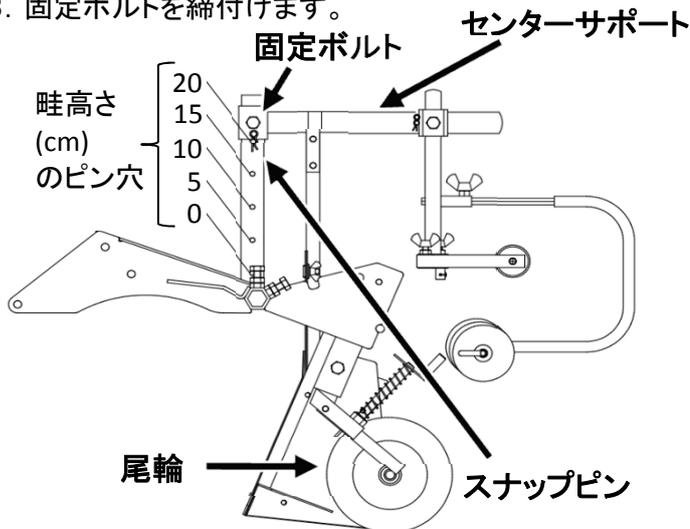
◆ 仕様(単位 cm)

畝高さ	畦裾幅	畦肩幅	適応シート幅
0・5・10・15・20	65	60	95
	↘	↘	↘
(無段階調節も可能)	110	105	160



◆ 畦高さの調節

1. ご希望の畦高さに対応したピン穴にピンを差込み、スナップピンで止めます。
2. センターサポートをピンに当てます。
3. 固定ボルトを締付けます。



補足

※ 尾輪は耕深や土質などに応じて上下調節してください。

■ マルチの調節



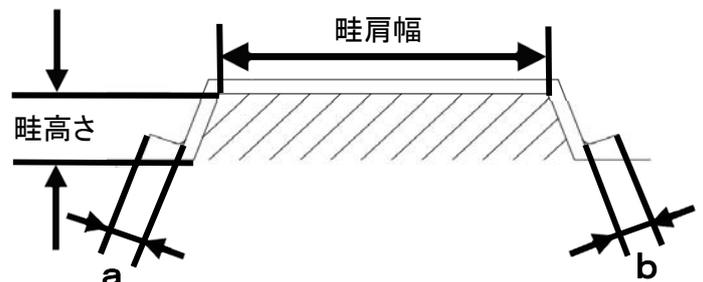
警告

※ マルチ調節時やマルチフィルム取付け時、及びマルチクッションホイール高さ調節時は、エンジンを必ず停止してください。傷害事故のおそれがあります。

◆ マルチフィルムと畦寸法の合わせ方

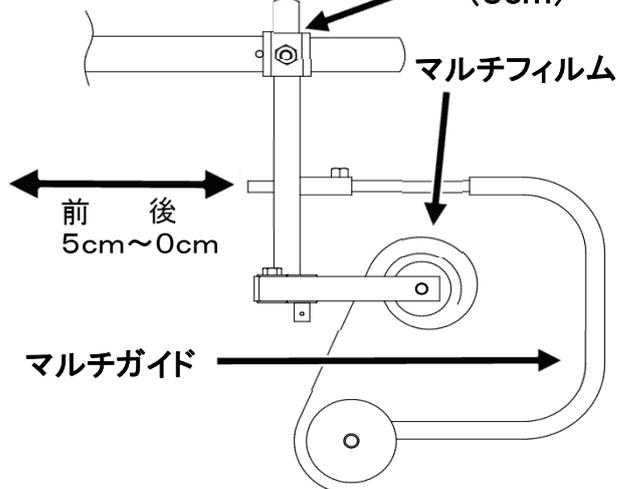
1. マルチフィルムの幅

$$= \text{畦肩幅} + (\text{畦高さ} \times 2) + 15 \sim 20 \text{cm}$$
 ※ $15 \sim 20 \text{cm}$ (a+b) = 土をかける部分
2. a+b = 土をかける部分の目安
 - ① 畦高さ 0~10cm 及び有孔マルチフィルム 使用時 【15cm】
 - ② 畦高さ 15~20cm の時 【20cm】



◆ マルチフィルムの取付方とマルチガイドの調節

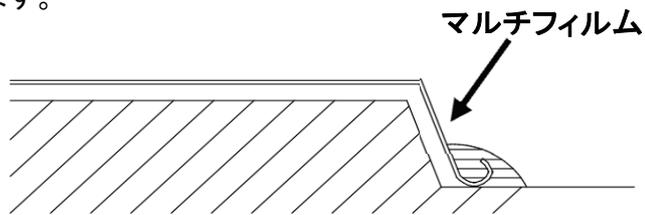
1. マルチフィルムはCの字に取付けます。
2. マルチガイドの上下について
 - ① 下の図の位置が標準位置になります。
 - ② マルチガイドは畦の上を軽く転がるのが基本です。鎮圧の強弱を付けたいときは、上下調節してください。
3. マルチガイドの前後について
 マルチガイドは畦高さより前後 (5~0cm) 調節してください。
 - 前... 高畦 (15・20cm)
 - 後... 低い畦 (5・10cm)



作業のしかた

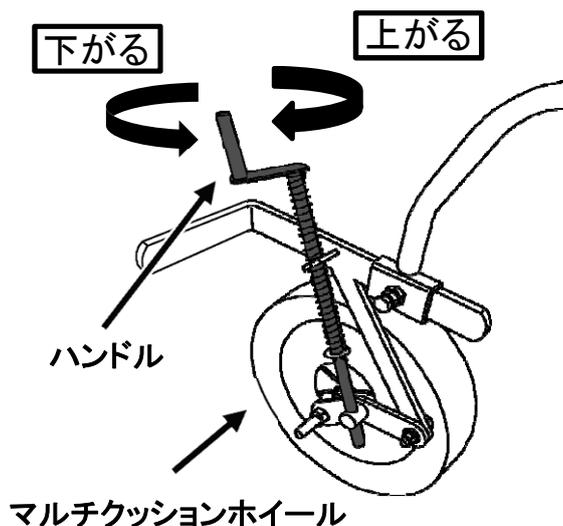
◆ 土のかけ方の調節

マルチフィルムの裾が土を抱き込むように土をかけると、雨や風に対してフィルムが外れることが少なくなります。



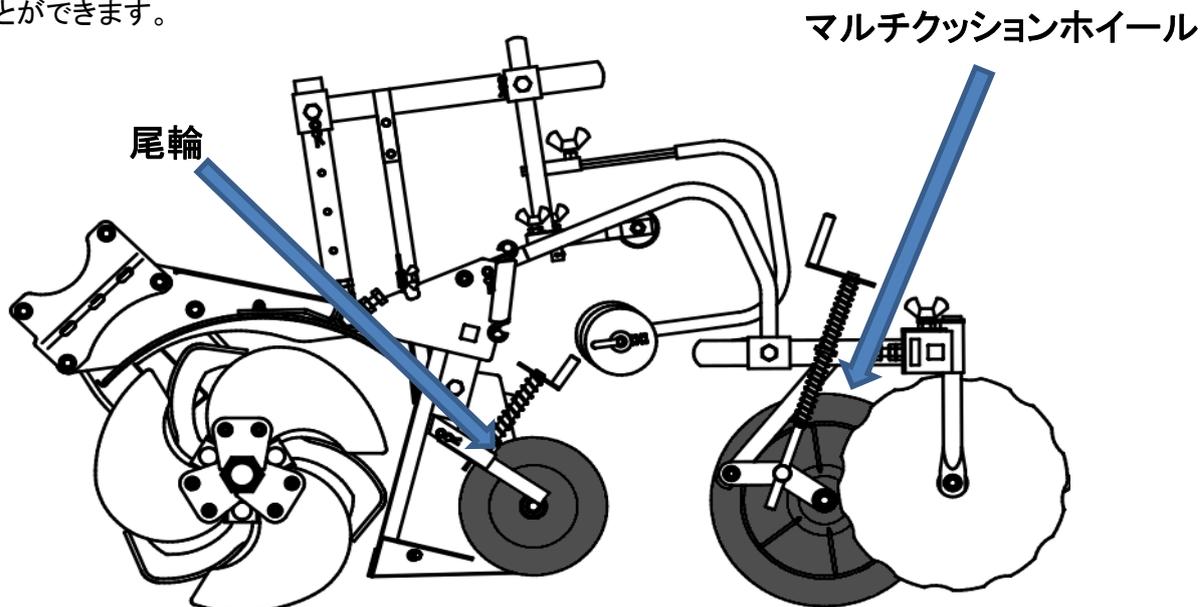
◆ マルチクッションホイールの高さ調節

土がマルチフィルムにうまくかからない場合はマルチクッションホイールの高さを調節することで、しっかりかけることができます。



マルチフィルムの裾の巻き具合が強い場合には、ハンドルを時計回りに回すことでマルチクッションホイールを上げることができます。

マルチフィルムの裾の巻き具合が弱い場合には、ハンドルを反時計回りに回すことでマルチクッションホイールを下げるすることができます。



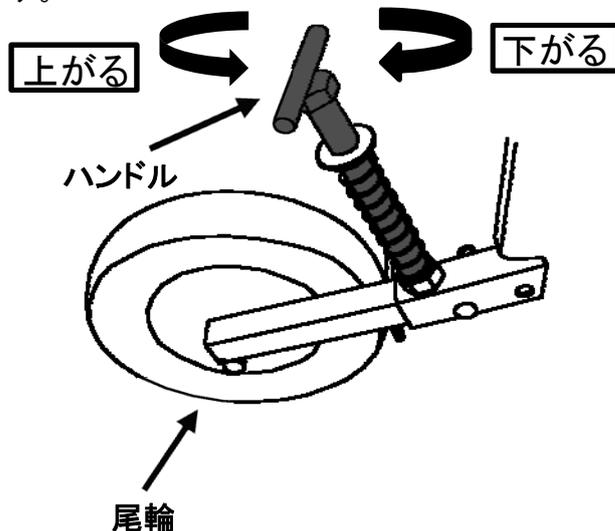
■ 尾輪の高さ調節



警告

※ 尾輪の高さ調節時は、エンジンを必ず停止してください。傷害事故のおそれがあります。

尾輪の高さを変えることで、耕す土の深さを調節できます。



耕す土の深さを浅くしたい場合には、ハンドルを時計回りに回すことで尾輪を下げるすることができます。

尾輪が下がることでロータリが上がり、耕す土の深さが浅くなります。

耕す土の深さをより深くしたい場合には、ハンドルを反時計回りに回すことで尾輪を上げることができます。

尾輪が上がることでロータリが下がり、耕す土の深さが深くなります。

■ 覆土板の調節

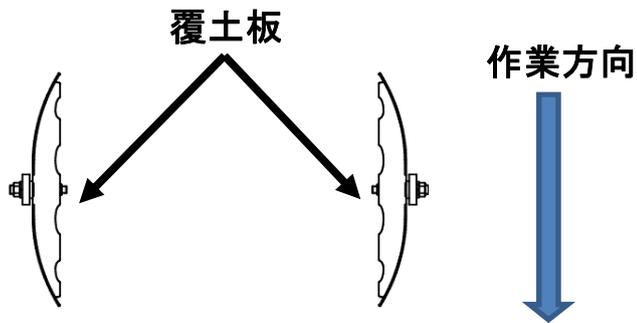


警告

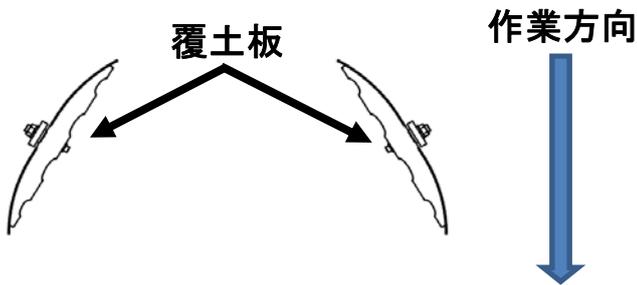
※ 覆土板の調節時は、エンジンを必ず停止してください。傷害事故のおそれがあります。

◆ 角度の調節

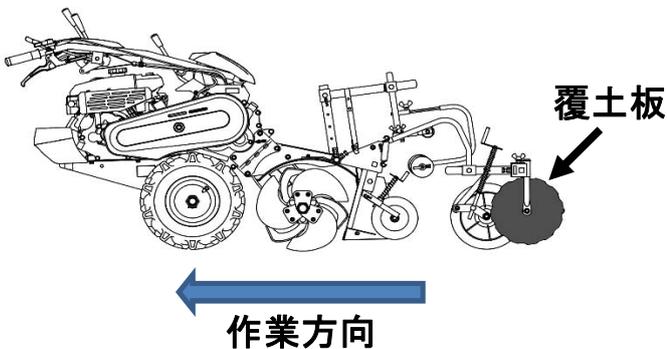
覆土板の角度を調節することで、マルチフィルムの裾にかける土の量を調節できます。



機体を上から見た場合、上図のように覆土板を左右平行に近づけると、土の量が少なくなります。



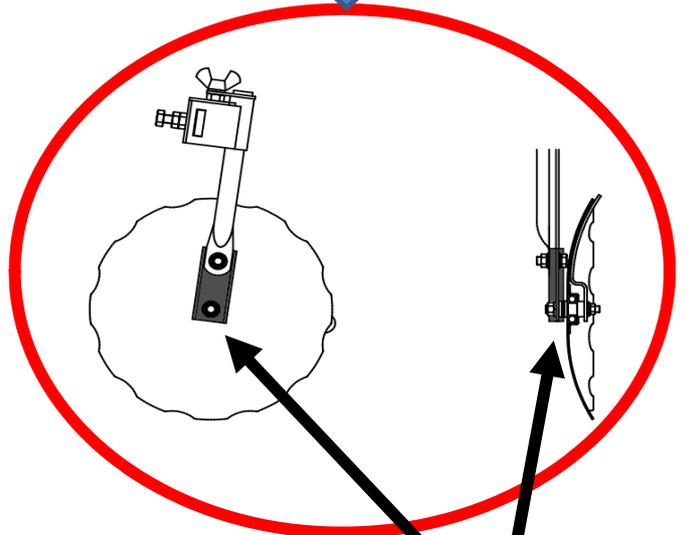
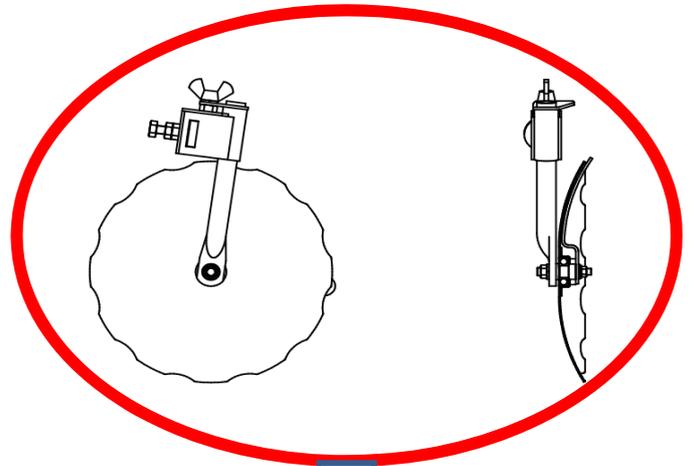
機体を上から見た場合、上図のように覆土板を「ハ」の字にすると、土の量が多くなります。



◆ 延長金具の取付

畦高さが0cmまたは5cmのときは、延長金具を使って覆土板を下方に延長してください。

延長金具取付前



延長金具取付後

延長金具

簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について



警告

廃棄物をみだりにすてたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは

- ※ 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- ※ 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海岸への投棄はしないでください。
- ※ 廃油、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

日常の手入れ



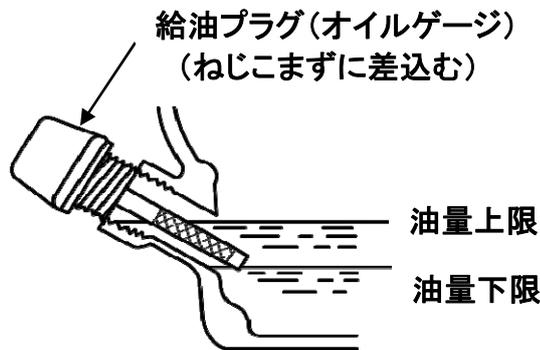
注意

- ※ 給排油・点検・調節・清掃は、エンジンを停止しエンジンやマフラーが十分に冷えてから行ってください。
- ※ 平坦な場所に機械を安定させて行ってください。

■エンジンオイルの交換

◆ 給油のしかた

エンジンを水平にしオイルゲージを用いて、規定量まで入れます。



◆ 排油のしかた

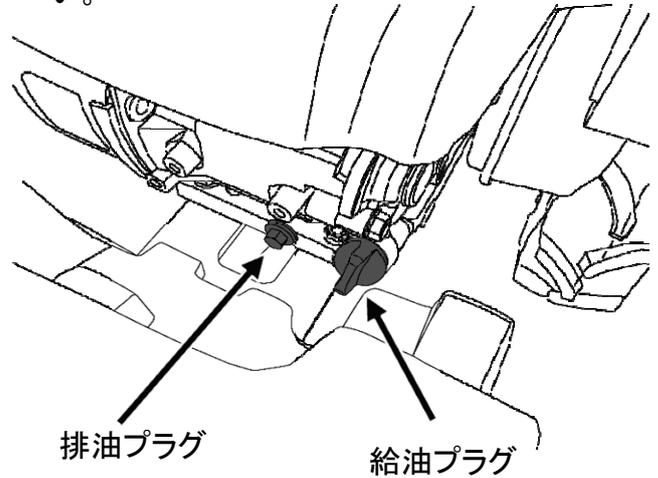
機体を水平に安定させプラグを外し、排油してください。この時、必ずオイルパン等で受けてください。

重要

※ 粗悪なオイルを使用するとエンジンの寿命を急激に縮めます。エンジンオイルを交換、補充するには購入先でエンジンオイル 10W-30 とご指定の上お求めください。

(次頁の[オイルの点検と交換表]を参照)

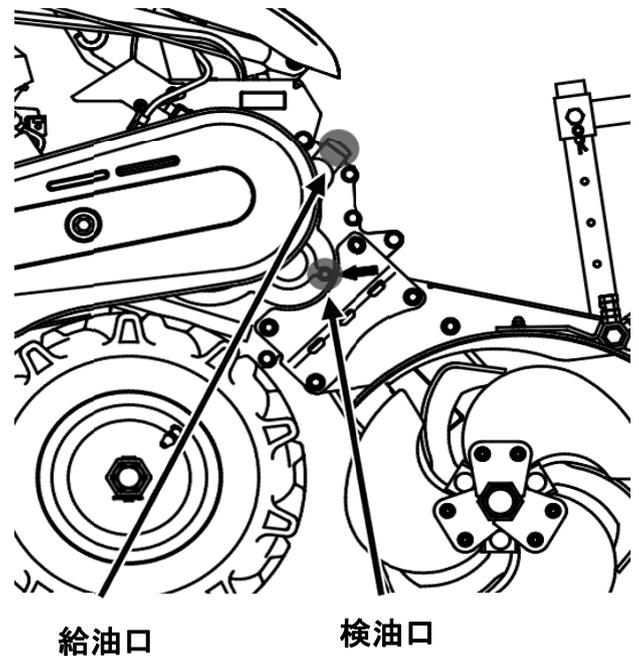
※ 排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。



■ミッションオイルの交換

◆ 給油のしかた

機体(エンジン)を水平にし検油口まで給油してください。



簡単な手入れと処置

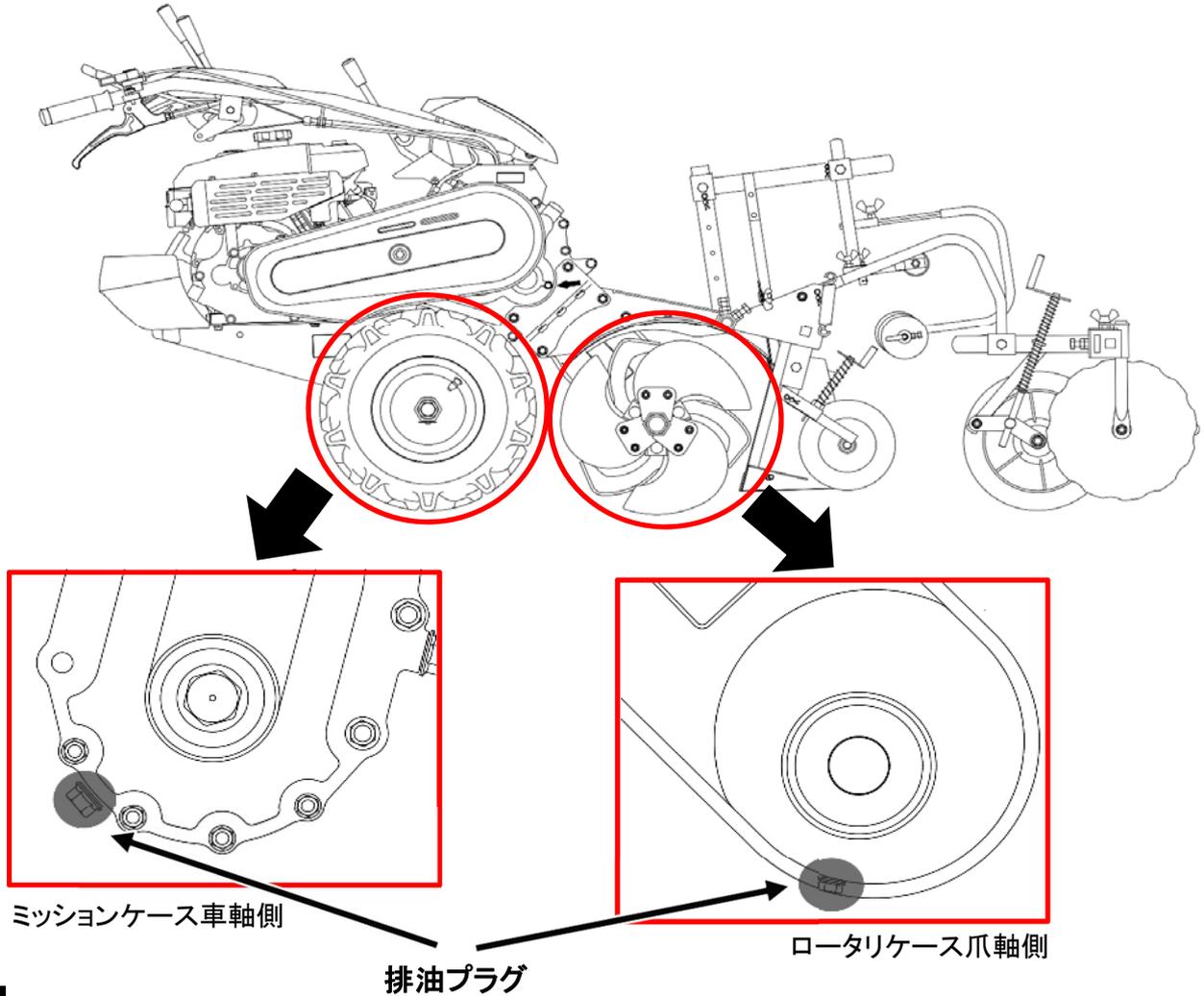
◆ 排油のしかた

ミッションケース車軸側にある排油プラグを外し排油します。この時、必ずオイルパン等で受けてください。

補足

※ 注油口の注油口栓を外すとオイルの出がスムーズになります。

またオイルが抜けきれない場合、ロータリケース爪軸側にある排油プラグから排油することもできます。



重要

※ 粗悪なオイルを使用するとミッションの寿命を急激に縮めます。ミッションオイルを交換、補充するには購入先でミッションオイル#90とご指定の上お求めください。

(次頁の[オイルの点検と交換表]を参照)

※ 排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。

オイルの点検と交換表

項目 (オイル量)	点検方法	交換		オイルの種類
		第一回目	以降	
エンジンオイル(0.55L)	エンジン水平	20時間使用后	50時間使用后	10W-30
ミッションオイル(4.2L)	機体水平	20時間使用后	年一回	#90

簡単な手入れと処置

■ エアクリーナーエレメントの清掃とオイル交換

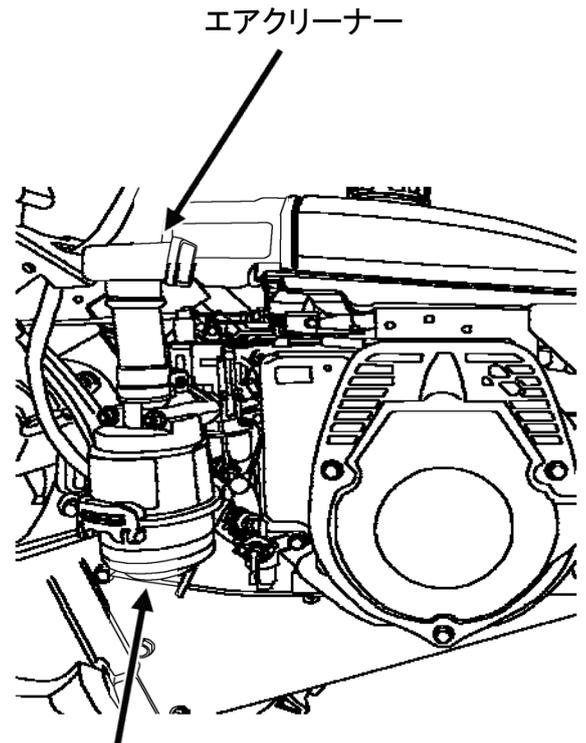
1. エレメントは時々白灯油で洗い、エンジンオイルを塗布して、よく振切ってから取り付けてください。
 2. オイルパンはよく洗浄し、新しいエンジンオイルを規定量入れてください。
- 規定量・・・OIL ↑ LEVELと記載されているところ。

重要

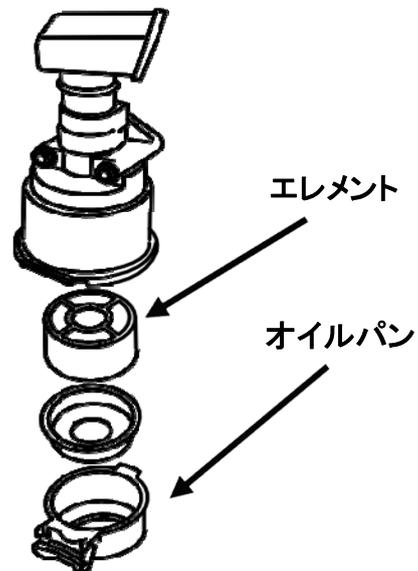
- ※ エアクリーナーエレメントを外したままエンジンを始動しないでください。ゴミやホコリを吸込み、エンジン不調やエンジン異常摩耗の原因となります。
- ※ 汚れたまま使用しますと、エンジン出力低下や故障の原因となります。

エレメント (オイル)	清掃 交換	通常	50時間ごと
		ホコリの多い場合	毎日
		汚れがひどいとき	

- ※ チリやホコリが多く発生する土入れ作業などで使用する場合は
 - (1) ホコリの少ない方向にエアクリーナー吸入口を向けてください。
 - (2) 毎日点検してください。
- ※ 規定量よりエンジンオイルを入れすぎると、エンジン不調の原因となります。



OIL ↑ LEVEL
(オイルレベル)



簡単な手入れと処置

■燃料フィルタの清掃

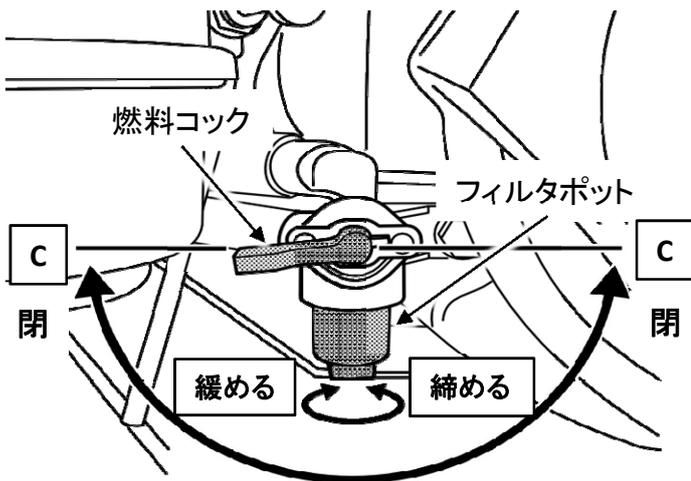


注意

※ 取付け後、ガソリンもれがないか確認してください。

1. 燃料フィルタは、燃料のゴミを取り除きます。取り除かれたゴミは、ポットの底にたまります。
2. 燃料コックレバーを[C](閉)にし、フィルタポットを外しポットの底にたまっているゴミや水を捨てます。

100時間使用ごと	フィルタの清掃
300時間使用ごと	タンクの清掃



■タイヤ空気圧



警告

- ※ タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎはタイヤ破裂のおそれがあり、死傷事故の原因になります。
- ※ タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
- ※ タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は必ず購入先にご相談ください。(特別教育を受けた人が行うように、法で決められています。)

空気圧が高すぎても低すぎても、タイヤの寿命を縮めます。定期的に空気圧を調べ、適性になるように調整してください。

適正空気圧	120kPa(1.2kgf/cm ²)
-------	---------------------------------

空気を入れるには、エアコンプレッサ、又は自動車などのタイヤに空気を入れる高圧手押しポンプを用いてください。

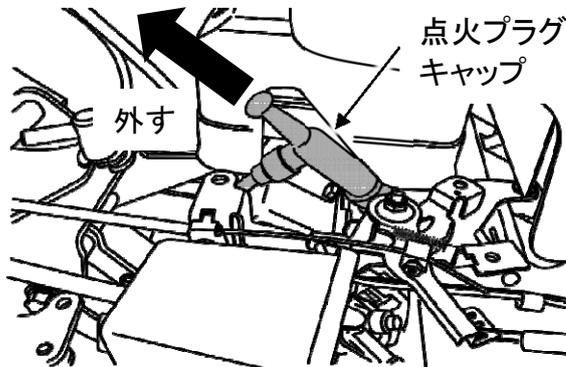
■点火プラグの調節・清掃・交換



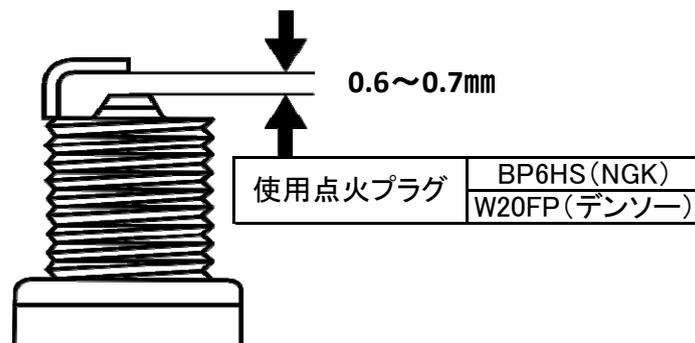
注意

※ 高温部が冷えてから行なってください。

1. 点火プラグキャップを外し点火プラグを露出させます。



2. 付属のプラグボックスでプラグを外して、電極に付着したカーボンを取り除き、紙ヤスリでみがきます。
3. 電極の隙間が0.6~0.7mmになるように調節してください。
4. 点検清掃は6ヶ月に1回行なってください。



5. 作業が終わったら、点火プラグキャップを元に戻してください。

重要

- ※ プラグ締付け時は、ネジ山をつぶさないように、はじめは手で締め込んでから、プラグボックスで締付けてください。
- ※ 調節・清掃してもエンジンが不調なときは、新しいプラグと交換してください。
- ※ プラグを外したまま始動操作をしないでください。

簡単な手入れと処置

■主クラッチケーブルの調節



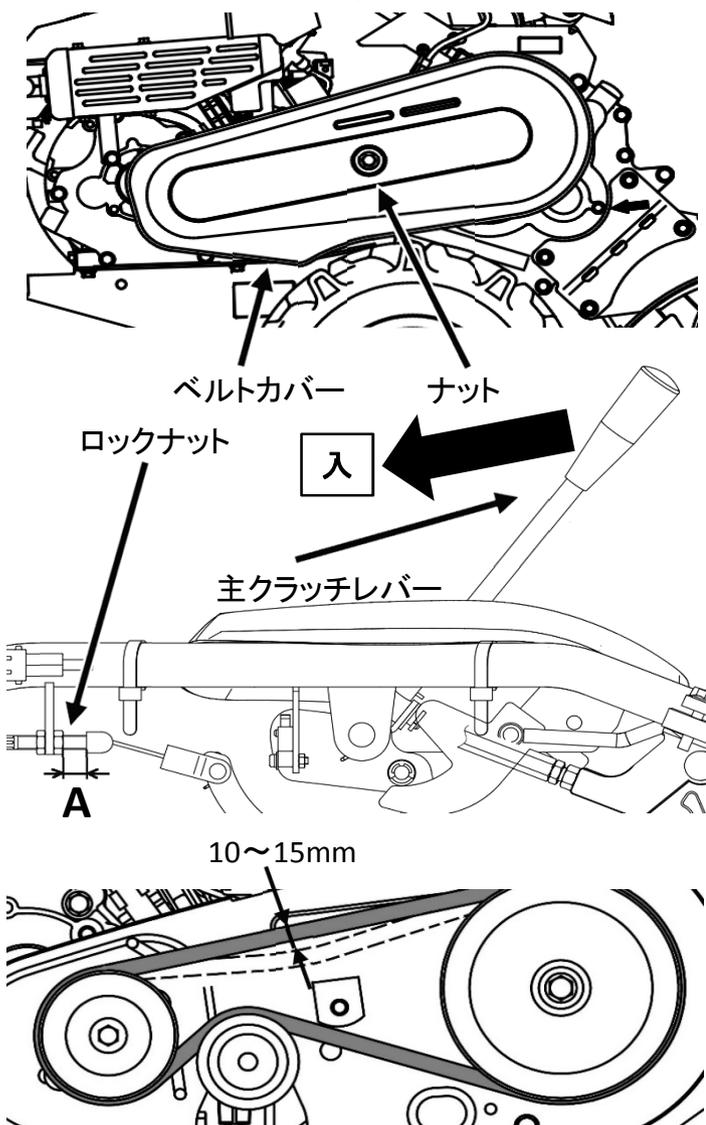
警告

- ※ 主クラッチケーブルの調節を行う場合は、必ずエンジンを停止してから行なってください。
- ※ 調節が終わったら必ずベルトカバーを取付けてください。巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす恐れがあります。
- ※ エンジンを始動する前に、走行レバーを中立にしてください。
- ※ 調節・確認時は周囲に人や動物を近づけないでください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ 主クラッチケーブルによる調節

1. ベルトカバーのナットを外し、ベルトカバーを取外します。
2. 主クラッチレバーを入れた状態で、ベルトの中央部を指で押さえ10～15mmたわむ程度に、ケーブル調整金具でテンションプーリーを調節します。なお、使用初期はベルトが伸びやすいため、10時間使用後にケーブルを再調整してください。

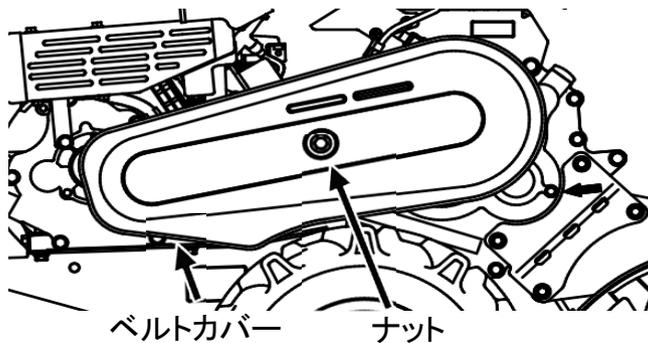
ベルトがスリップするとき	調節金具のAを短くする
主クラッチレバーが重すぎるとき	調節金具のAを長くする



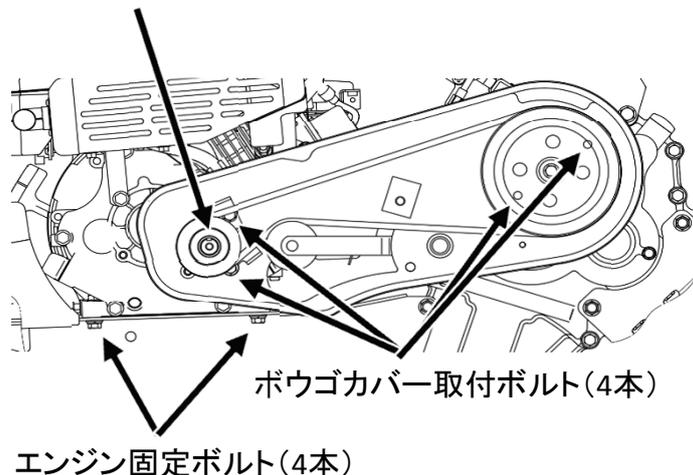
◆ エンジン前後によるベルトの調節

ベルトが伸びたり、又は新しいベルトに取替えたとき、主クラッチケーブルで主クラッチの調節ができない場合は、エンジンを前後に移動して調節します。

1. ベルトカバーの取付ナットを外し、ベルトカバーを取外します。
2. プーリーを止めているボルトを外し、プーリーを外します。
3. ポウゴカバーの4本のボルトをゆるめます。調整後は確実に各種ボルトを締付けてください。
4. エンジンを固定しているボルトをゆるめて調節します。調節後は確実に各種ボルトを締付けてください。



プーリーボルト



重要

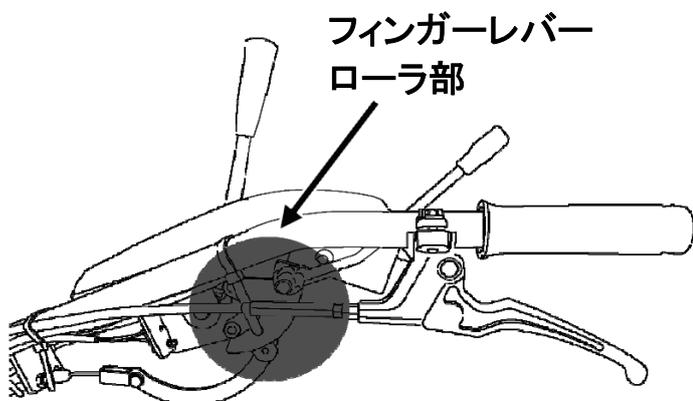
- ※ 使用初期はベルトが伸びやすいため、10時間使用後ケーブルを再調整してください。
- ※ 主クラッチケーブルを調節した場合、エンジンを始動してクラッチの[入]・[切]が確実に作動するか確認してください。
- ※ 調節後は、調節金具のロックナットを確実に締付けてください。

補足

- ※ 主クラッチケーブルが調節金具の調節範囲で調節できなくなれば、ベルトの交換時期です。ベルトの交換は、購入先にお問い合わせご相談ください。

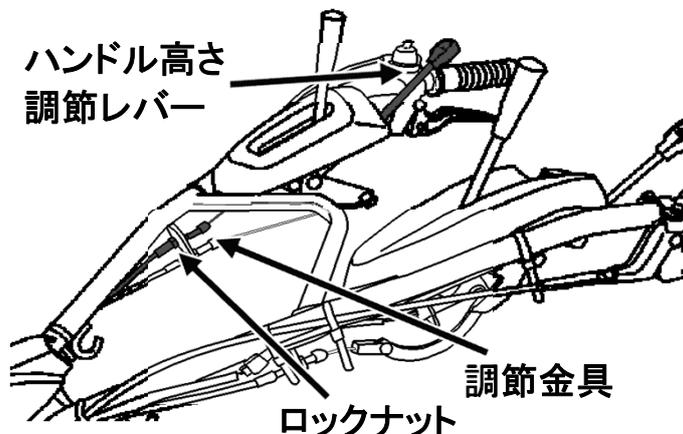
重要

※ フィンガーレバーのローラに土が付着した場合は必ず取除き、その後にグリスを塗布してください。フィンガーレバーの作動不良の原因となります。



■ハンドル上下の調節

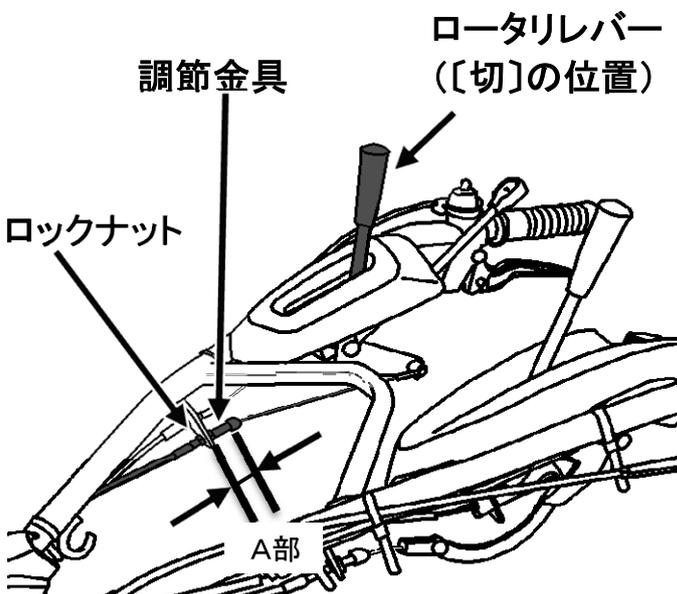
ハンドル高さ調節レバーを押してハンドルが上下に動かない、又は調子が悪いときは、ワイヤの調節金具で調節します。ハンドルをセットしたときにプレートにピンが確実に入っていることを確認し、調節金具のロックナットで固定します。



■ロータリケーブルの調節

ロータリレバーを[切]の位置にしたときにロータリが止まらなかった場合、または[入]の位置にしたときにクラッチが入りにくい場合は、ロータリケーブルの調節金具を調節します。調節後はロックナットを確実に締付けてください。

ロータリが止まらない場合	調節金具のA部を長くする
クラッチが入りにくい場合	調節金具のA部を短くする

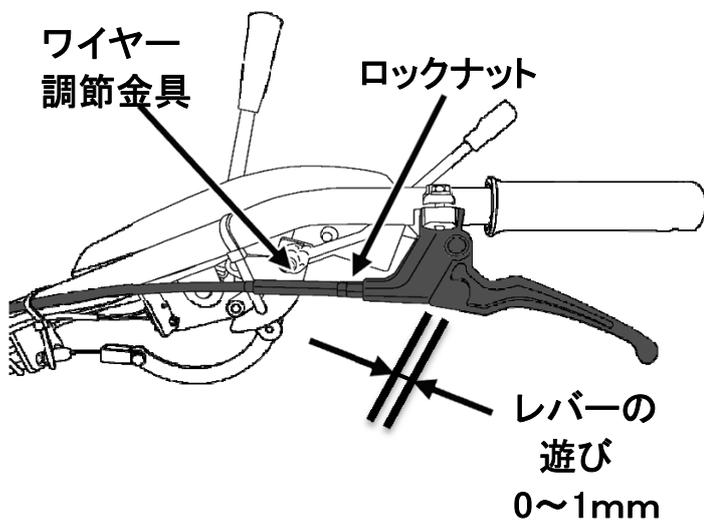


■操向クラッチケーブルの調節

操向クラッチレバーを握っても操向クラッチが切れにくい場合、また操向クラッチレバーを離しても入りにくい場合は、調節金具のロックナットをゆるめて調節します。

切れにくい場合	調節金具を長くする
戻りにくい場合	調節金具を短くする

調節後はロックナットを確実に締付けてください。



簡単な手入れと処置

■スロットルレバーの調節

スロットルレバーを最高回転にしてもエンジン回転数が上がらないときは、スロットルケーブルの調節が必要となります。

調節に際しては、購入先にお問い合わせください。

■移動時のマルチ押さえアーム



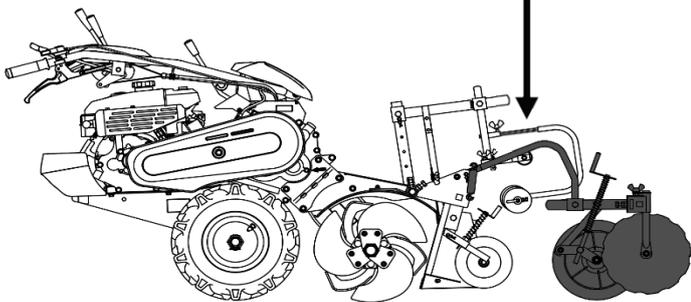
警告

※ マルチ押さえアームを動かす時は、エンジンを必ず停止してください。

※ 機体が安定する平坦な場所で行なってください。

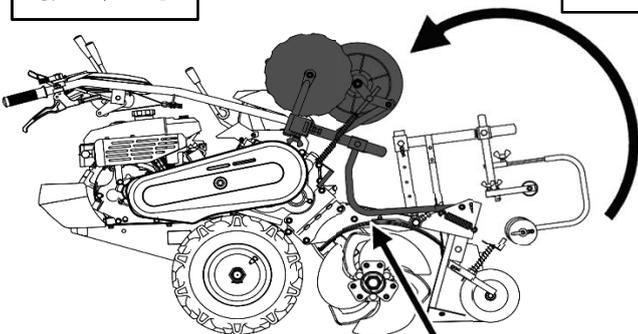
移動する際は、マルチ押さえアームを上げることができます。

作業時



移動時

上げる



マルチ押さえアーム

■耕うん爪の取付け方

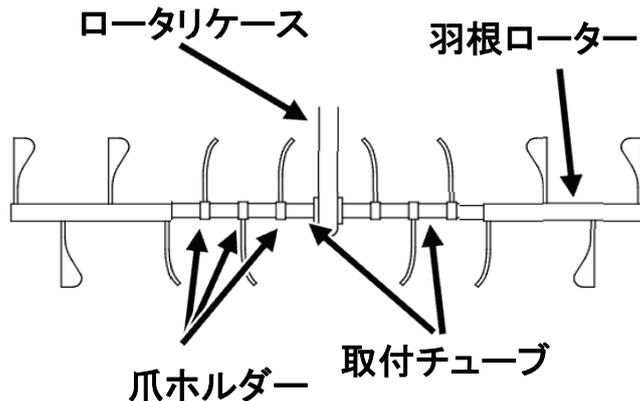


警告

- ※ 爪の交換時は、エンジンを必ず停止してください。
- ※ 爪交換時はロータリに付いた土を落とし、ロータリ部が落下しないようにしてください。
- ※ 上記の手順をおこたると、傷害事故のおそれがあります。

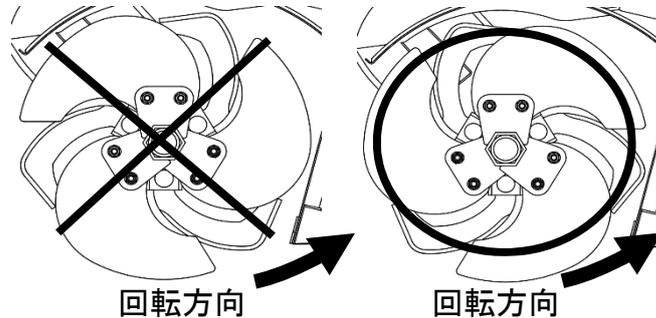
◆ 爪軸の取付け方

左右及び回転方向に注意して取付けます。

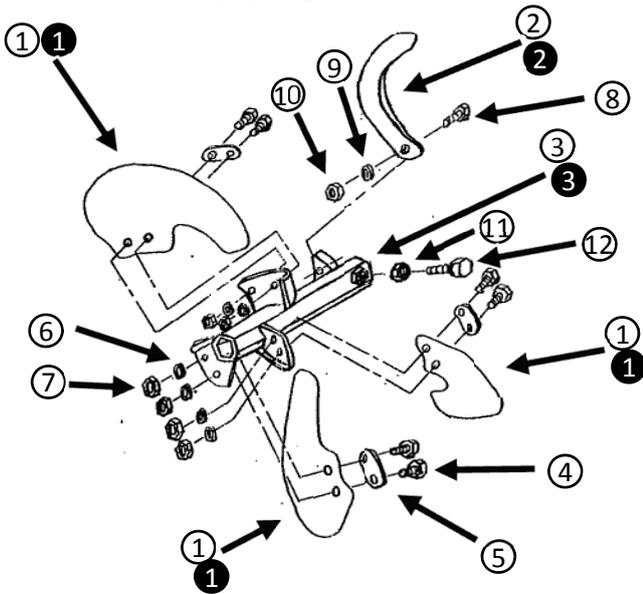


重要

- ※ 爪軸の向きは下記の図のように取り付けて下さい。誤った方向で作業を行うと機体を破損する恐れがあります。



◆ 羽根ローターの組付け方



※ 上の図は羽根ローター(L)を示します。
(R)は上の図の対象形状となります。

羽根ローター(L)

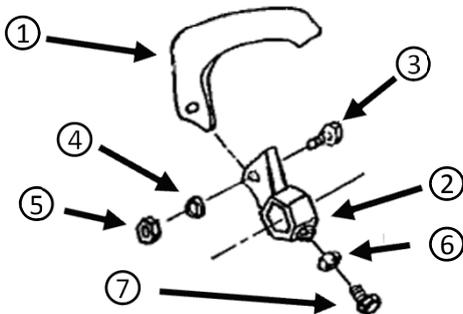
番号	必要部品	数量
①	ハネH-175(L)	3
②	CガタタヨウツメE165(L)	1
③	ホルダー F4レン	1
④	ボルト(P=1.25) M8×20	6
⑤	ヒラザガネ(佐野製)	3
⑥	バネザガネM8	6
⑦	ナット(P=1.25) M8	6
⑧	小頭ボルト(P=1.25) M10×20	1
⑨	バネザガネ	1
⑩	コガタナット(P=1.25) M10	1
⑪	トメナット(P=1.75) M12	1
⑫	小頭ボルト(P=1.75) M12×30	1

ハネローター(R)

番号	必要部品	数量
①	ハネH-175(R)	3
②	CガタタヨウツメE165(R)	1
③	ホルダー F4レン(R)	1
④	ボルト(P=1.25) M8×20	6
⑤	ヒラザガネ(佐野製)	3
⑥	バネザガネM8	6
⑦	ナット(P=1.25) M8	6
⑧	小頭ボルト(P=1.25) M10×20	1
⑨	バネザガネ	1
⑩	コガタナット(P=1.25) M10	1
⑪	トメナット(P=1.75) M12	1
⑫	小頭ボルト(P=1.75) M12×30	1

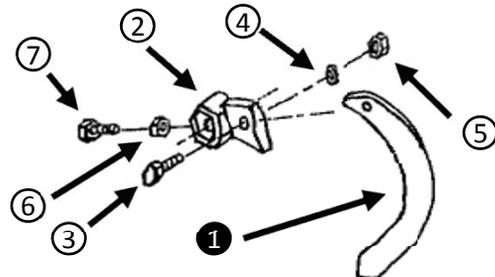
◆ 爪ホルダーの組付け方

爪ホルダー(L)



番号	必要部品	数量
①	CガタタヨウツメE165(L)	4
②	タヨウツメホルダー	4
③	小頭ボルト(P=1.25) M10×20	4
④	バネザガネ	4
⑤	コガタナット(P=1.25) M10	4
⑥	トメナット(P=1.5) M10	4
⑦	ボルト(P=1.5) M10×25	4

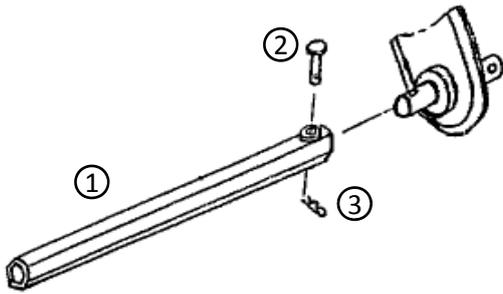
爪ホルダー(R)



番号	必要部品	数量
①	CガタタヨウツメE165(R)	4
②	タヨウツメホルダー	4
③	小頭ボルト(P=1.25) M10×20	4
④	バネザガネ	4
⑤	コガタナット(P=1.25) M10	4
⑥	トメナット(P=1.5) M10	4
⑦	ボルト(P=1.5) M10×25	4

簡単な手入れと処置

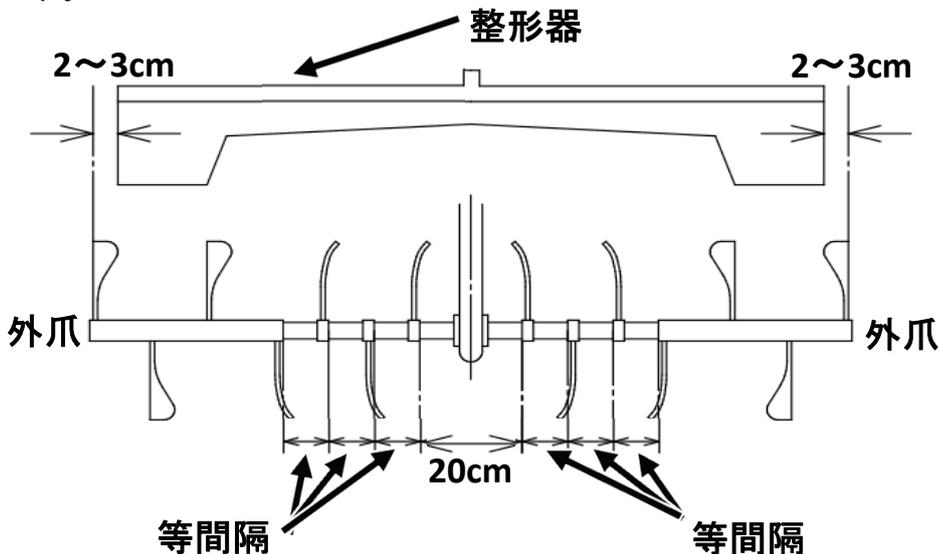
◆ 取付チューブの組付け方



番号	必要部品	数量	
①	トリツケチューブ	2	※左右各1個
②	アタマツキピンM10×60	2	※左右各1個
③	スナップピン M10	2	※左右各1個

◆ ローターの調整

ローターの外爪は整形機より2～3cm外に出して下さい。
一番内側の爪はセンターケースより20cm離すのが基準です。
外爪と内爪の位置を決めたら、爪ホルダーを等間隔にしてセット完了です。



※ 紛失、消耗の場合は品番、品名を購入した販売店に伝え注文してください。

品番	品名	数量
009401910701000	トメナット(P=1.75)M12	2
009401910702000	小頭ボルト(P=1.75)M12×30	2
009401910703000	タヨウツメホルダー	8
009401910704000	コガタナット(P=1.25)M10×20	10
009401910705000	パネザガネ	10
009401910706000	小頭ボルト(P=1.25)M10×20	10
009401910707000	Cガタタヨウツメ E165(L)	5
009401910708000	トメナット(P=1.5)M10	8
009401910709000	ボルト(P=1.5)M10×25	8
009401910713001	トリツケチューブ	2
009401910714000	スナップピン M10	2
009401910715000	アタマツキピン M10×60	2
009401910716000	ホルダー F4レン(R)	1
009401910717000	ハネ H-175(R)	3
009401910718000	Cガタタヨウツメ E165(R)	5
009401910720000	パネザガネ M8	12

品番	品名	数量
009401910721000	ボルト(P=1.25)M8×20	12
009401910722000	ハネ H-175(L)	3
009401910723000	ヒラザガネ(佐野製)	6
009401910724000	ナット(P=1.25)M8	12
009401910725000	ホルダー F4レン	1

◆ 締付トルク

M8 …… 20～25N・m
M10 …… 40～50N・m
M12 …… 70～80N・m

重要

- ※ 取付ピン、スナップピンの向き、爪の内外の向き、並び及び種類を間違えないようにしてください。
- ※ 作業前は爪の取付ボルト・ナットにゆるみがないか確認し、増締めをしてください。
- ※ 爪を交換後は、ボルトを確実に締めてください。

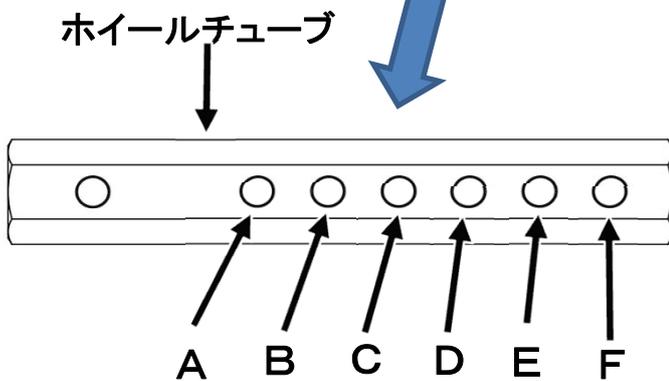
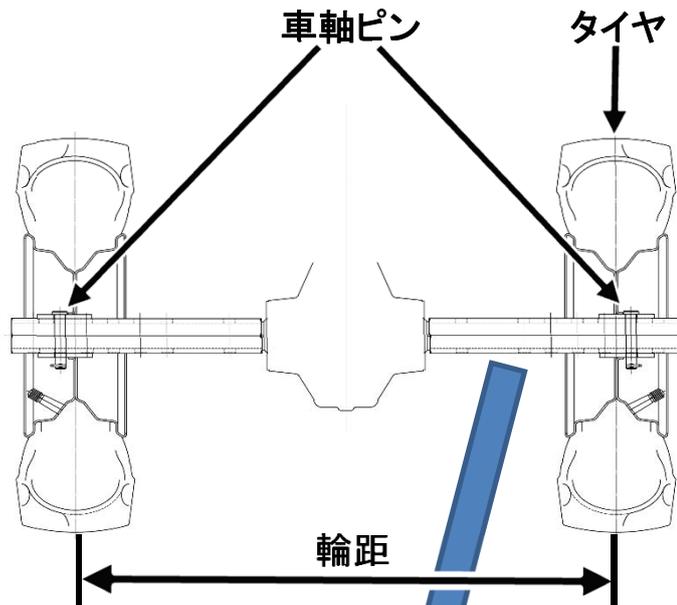
■ 輪距の調節



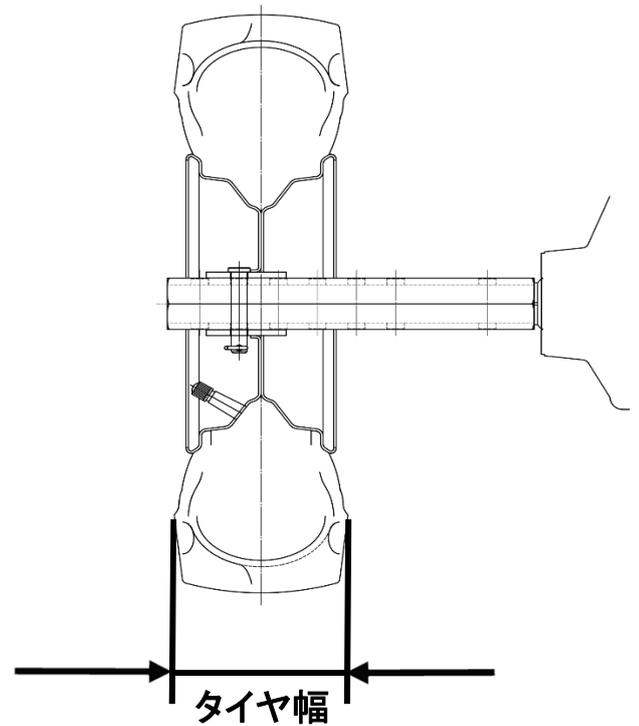
警告

※ 輪距の調節時は、エンジンを必ず停止してください。傷害事故のおそれがあります。

作業条件に応じて、輪距調節は次のとおり行ないます。車輪ハブと六角ホイールチューブは、車軸ピン(1本)で組付けてありますので、ピンを抜いて調節や交換を行なってください。



タイヤサイズ	4.00-7
ピン位置	輪距[mm]
A	300
B	350
C	400
D	450
E	500
F	550
タイヤ幅	111

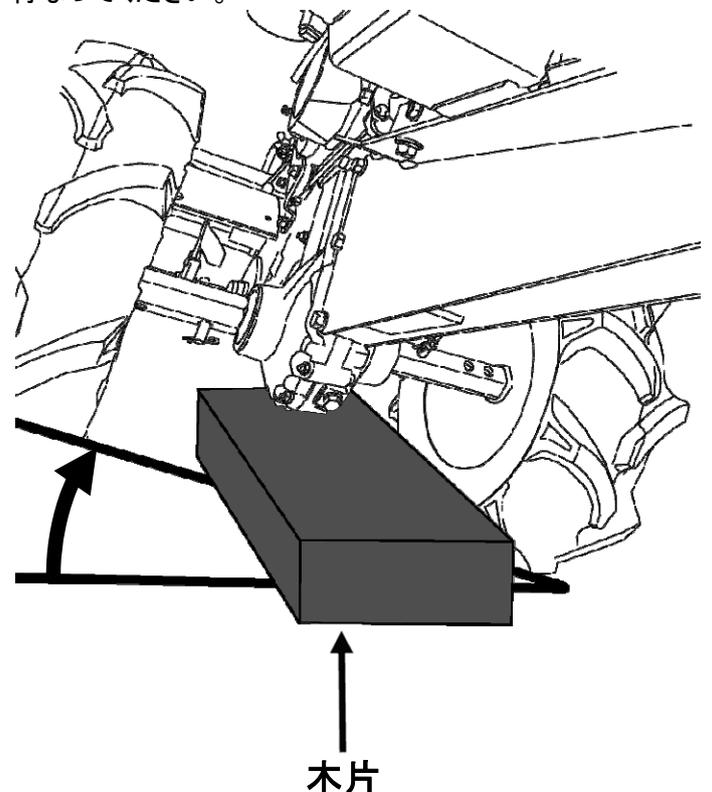


重要

※ 燃料コックレバーを[C] (閉) にしてから作業してください。

◆ 輪距の調節・交換の注意

固い地面に丈夫な木片を用い、機体を安定させてから行なってください。



簡単な手入れと処置

使用後の手入れ

使用後は、必ずその日に清掃を行い、各部に付いている土やゴミを落とし、各しゅう動部はさびないように油やグリスを塗布してください。特にファンカバー内にゴミが詰まると、エンジンの焼付きなどの原因になりますのでよく点検・清掃を行なってください。

重要

※ 水洗いのときにエアクリーナ吸気口から水が入らないように気をつけてください。

■エンジン始動不良を防ぐために

エンジン停止後、必ず燃料コックを閉めてください。

重要

※ コックを開いたまま保管したり、前に倒したり、また車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難になります。また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

■長期保管時の手入れ



注意

- ※ カバーをかけたり、納屋に保管するときは、火災のおそれがあるため、エンジンが冷えてから行なってください。
- ※ 燃料がこぼれたときは、きれいにふき取ってください。爆発、火災のおそれがあります。

1. 主クラッチレバーは[切]の状態にして保管します。
2. 燃料タンク・キャブレターフィルタポットの中のガソリンは全て抜取ります。
(1ヶ月以上使用しないとき)
3. オイルを交換し、各部をきれいに掃除します。
4. エアクリーナエレメントをきれいに掃除しておきます。
5. エンジンのシリンダ内に湿気が入って、始動が困難になるのを防止するため、リコイルスタータハンドルを引張って、圧縮位置で止めておきます。
6. カバーをかけ、湿気や草、ワラ及びホコリのない場所に置きます。

重要

※ ほ場に保管していると、地面からの湿気が多いので錆びやすくなります。

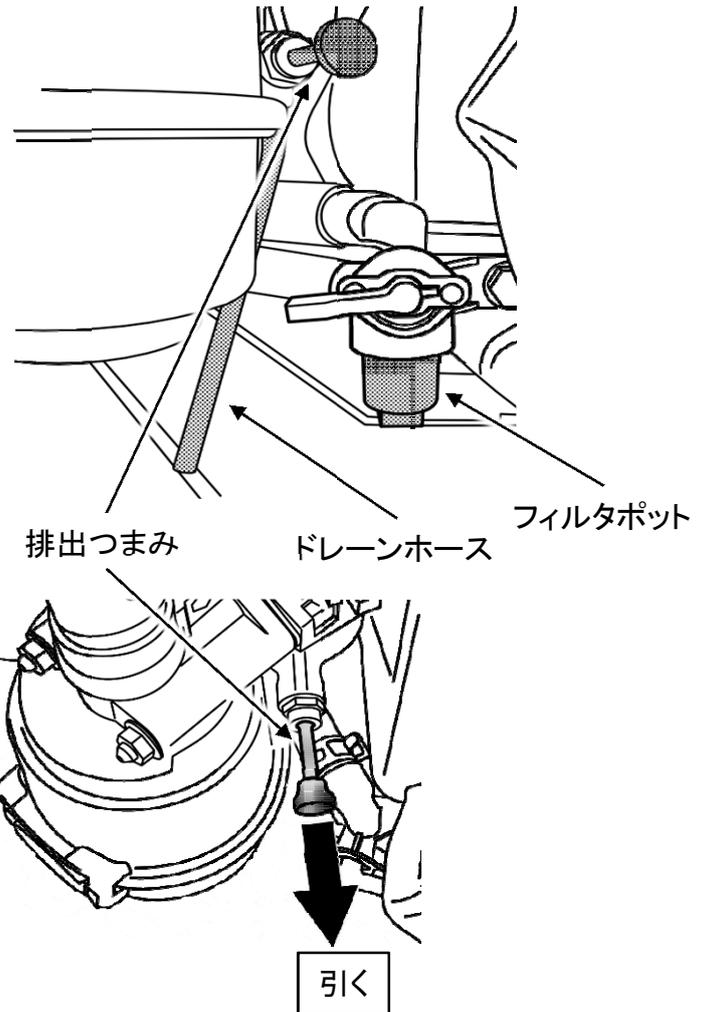
■燃料の抜取り



注意

- ※ 燃料を抜取るときはエンジンを停止し、エンジンやマフラーがじゅうぶんに冷えてから行なってください。
- ※ 火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対に行わないでください。
- ※ 燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。

1ヶ月以上使用しないときは、燃料タンクのガソリンはポンプなどで抜取り、キャブレター内は排出つまみを引いてフィルタポットは外して全部抜取ります。



重要

※ 燃料をそのままにしておくと、燃料タンクやキャブレター内のガソリンが変質し、次の始動が困難になります。

洗車時の注意

高圧洗浄機の使用方法を誤ると人に怪我をさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗浄機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。



注意

機械を破損させないように洗浄ノズルを拡散にし2m以上離して洗浄してください。

もし、直射したり、不適切な近距離から洗車すると、

1. 電気配線部被覆の破損・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。
2. 機械の破損・損傷・故障原因になります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。

例) (1) シール・ラベルの剥がれ。

(2) 電子部品・エンジン等への侵入による故障。

(3) 車輪、オイルシール等のゴム類樹脂類等の破損。

(4) 塗装、メッキ面の皮膜剥がれ。

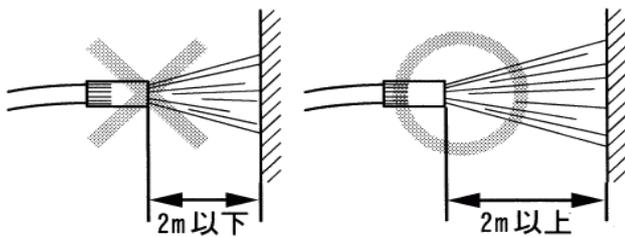
直射洗車厳禁



直射

拡散

近距離洗車厳禁



2m以下

2m以上



警告

※ カバーをかけた後、納屋に保管するときは、火災のおそれがあるため、エンジンが冷えてから行なってください。

※ 燃料がこぼれたときは、きれいにふき取ってください。爆発、火災のおそれがあります。

管理機を運搬するとき

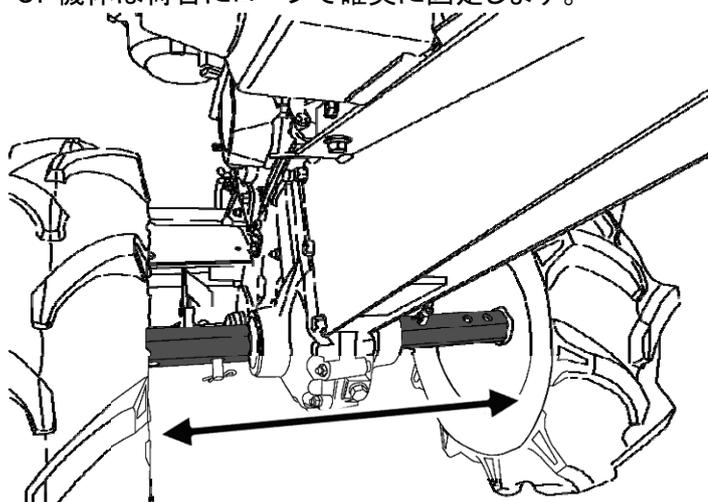
自動車(トラック)への積み込み、運搬



注意

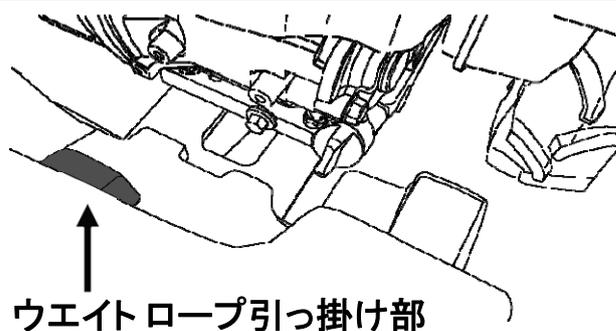
- ※ 積み込み、運搬は平坦な交通のじやまにならない安全な場所で行ってください。
- ※ アユミ板はすべり止めの付いた、機体重量に耐えられるもので、トラックの荷台の高さ[1]に対しアユミの長さ[4以上]のものを使用し、確実に固定してください。
- ※ 足元に注意し車速は最低速で上りは[前進]、下りは[後進]で移動してください。
- ※ 途中で絶対に主クラッチや操向クラッチを切ったりしないでください。落下・転倒のおそれがあります。
- ※ トラックは、荷台に天井がない車を使用してください。首や体をはさむおそれがあります。
- ※ トラックでの運搬時は、タンク内のガソリンの量を積み込み・積降ろしに必要な最低量とし、残りのガソリンは、別に用意しておいた法で定められたタソクに移して運搬してください。火災のおそれがあります。

1. トラックを平坦な場所に止め、駐車ブレーキをかけます。
2. あゆみ板を荷台に確実に固定します。
3. 車速は最低速で、上りは[前進]で、下りは[後進]にします。
4. 運搬時は車輪幅を広くし、爪と車輪がしっかり床面に着くようにします。
5. 機体は荷台にロープで確実に固定します。



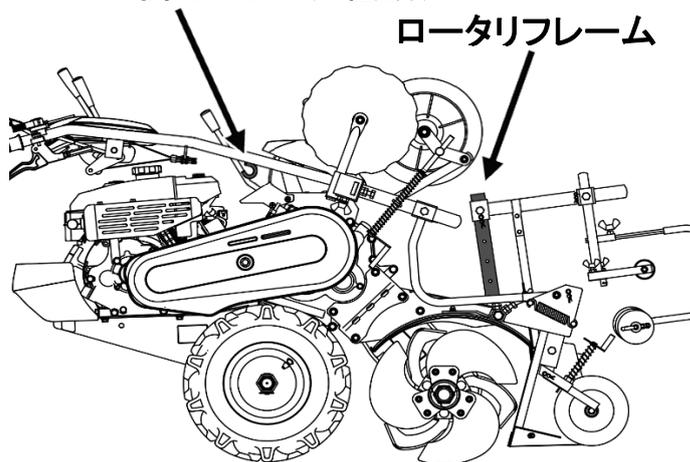
車幅を広げて取付ける

6. 機体にロープを掛けるときは、ロープ掛けフック(2箇所)とロータリフレーム、及びウエイトの合計4箇所を固定してください。



ウエイトロープ引っ掛け部

ロープ掛けフック(2箇所)

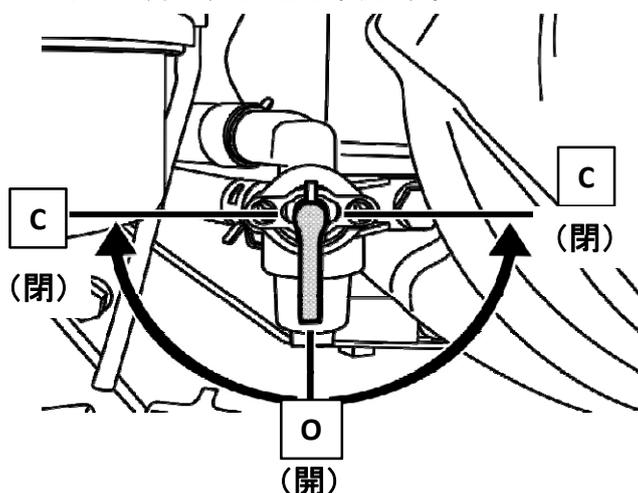


ロータリフレーム

7. 燃料コックレバーを[閉]にします。
8. 雨天時はエアクリーナーの吸気口にカバーをかぶせてください。

重要

- ※ ロープを掛けるとき、走行変速レバーや樹脂カバー、小物部品にロープが触れないよう気をつけてください。破損したり機能が損なわれるおそれがあります。
- ※ エアクリーナーの吸気口にカバーをかぶせないで運搬すると、雨水や砂ボコリが入り、エアクリーナー性能が低下します。
- ※ 燃料コックレバーを[○](開)にしたまま運搬すると、キャブレター内でガソリンがオーバーフローし、エンジン始動が困難になります。また、クランクケース内にガソリンが流入することもあります。



(閉)

(閉)

(開)

付表

主要諸元

製造型式名		KMR70
販売型式名		KMR70
機体寸法	全長 (mm)	1700(最大)、1555(最小)
	全幅 (mm)	1518
	全高 (mm)	1000(最大)、1260(最小)
機体重量 (kg)		159
エンジン	型式名	GB181LN-377
	種類	空冷4サイクル傾斜形横軸OHVガソリンエンジン
	総排気量 {L(cc)}	0.181(181)
	連続定格出力 {kW(PS)/rpm}	3.4(4.7)/1800
	最大出力 {KW(PS)}	4.6(6.3)
	使用燃料	自動車用無鉛レギュラーガソリン
	燃料タンク容量 (L)	3.0
	始動方式	リコイルスタータ式
走行部	車輪(タイヤ)	タイヤ 4.00-7
	輪距 (mm)	300 ~ 550
	主クラッチ方式	ベルトテンション式
	変速段数 (段)	前進1段、後進1段
	走行速度 (km/h)	2.1(前進)、0.7(後進)
	車軸の形状・寸法 (mm)	六角軸(35.5、39.8)
ロータリ	変速段数 (段)	1段
	爪軸回転数 (rpm)	263
	耕幅 (mm)	1400
	爪回転径 (mm)	350
	爪軸の形状・寸法 (mm)	丸軸・直径29

※この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

走行速度・ロータリ回転数一覧表

製造型式名		KMR70	
販売型式名		KMR70	
変速(走行/ロータリ)		前進1段・後進1段 / 1段	
エンジン出力軸回転数 (rpm)		1800(連続定格出力時)	1950(最大)
走行速度(前進) (km/h)		2.1	2.3
走行速度(後進) (km/h)		0.7	0.8
ロータリ回転数 (rpm)		263	285
条件	プーリ外径 (mm)	φ 70、φ 152	
	車輪	タイヤ(直径400mm)	

付表

標準付属品

品名	数量/台	備考
プラグボックス	1	
プラスドライバー	1	
取扱説明書	1	
保証書	1	

主な消耗部品一覧

品名	品番	数量/台	備考
Vベルト(RCLA-44)	358100000804000	2	
ケーブル(シュクラッチ)	238110000371000	1	
ケーブル(ハンドルジョウゲ)	238110000374000	1	
ケーブル(ロータリクラッチ)	238110000373001	1	
ケーブル(スロットル)	238110000377001	1	
ケーブル(サイドクラッチ)	238110000375001	2	
ホイルピン Φ10×55	227440000104000	4	ホイルチューブ・タイヤ取付用
スナップピン 10	0551571000	4	ホイルチューブ・タイヤ取付用
オイルシール AQ21-27-E	231100000235000	2	車軸
オイルシール TCD30×62×13	0955306213	2	耕うん軸
トメナット(P=1.75)M12	009401910701000	2	爪軸取付用
小頭ボルト(P=1.75)M12×30	009401910702000	2	爪軸取付用
タヨウツメホルダー	009401910703000	8	
コガタナット(P=1.25)M10×20	009401910704000	10	爪取付用
バネザガネ	009401910705000	10	爪取付用
小頭ボルト(P=1.25)M10×20	009401910706000	10	爪取付用
Cガタタヨウツメ E165(L)	009401910707000	5	
トメナット(P=1.5)M10	009401910708000	8	爪ホルダー取付用
ボルト(P=1.5)M10×25	009401910709000	8	爪ホルダー取付用
トリツケチューブ	009401910713001	2	
スナップピン M10	009401910714000	2	取付チューブ取付用
アタマツキピン M10×60	009401910715000	2	取付チューブ取付用
ホルダー Fレン(R)	009401910716000	1	
ハネ H-175(R)	009401910717000	3	
Cガタタヨウツメ E165(R)	009401910718000	5	
バネザガネ M8	009401910720000	12	羽根ローター取付用
ボルト(P=1.25)M8×20	009401910721000	12	羽根ローター取付用
ハネ H-175(L)	009401910722000	3	
ヒラザガネ(佐野製)	009401910723000	6	羽根ローター取付用
ナット(P=1.25)M8	009401910724000	12	羽根ローター取付用
ホルダー F4レン	009401910725000	1	
セイケイバン(ヒダリ)	238910000508000	1	
セイケイバン(ミギ)	238910000509000	1	
ビリン	231552000651000	2	
クッション(マルチ)	238910000542000	2	
ホイール(マルチクッション)	238910000543000	4	
シートトリツケコマ	313100000304005	2	
ロール(280)	238910000572000	4	
ガードクッション	238910000574000	2	

トラブルと処置

■エンジンが始動しないとき

原因	処置
● 始動の手順が間違っている。	正しい順序で始動する。(10ページの「運転のしかた」を参照)
● タンクにガソリンを入れたまま1ヶ月以上保管しガソリンが劣化した。	タンク・キャブレター内の劣化したガソリンを排出し新しいガソリンを入れる。
● フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外してフィルタエレメントを掃除する。または新しいものと交換する。 キャブレター内のガソリンも排出する。
● チョークを引いた(閉じた)状態でリコイルを何度も引きガソリンを吸いすぎた。	チョークを戻し(開き)リコイルを引くか、点火プラグを外して乾燥させる。
● エンジン停止後、燃料コックを閉じないで本機を前に倒したり、車両で運搬したため、キャブレターがオーバーフローした。	クランクケース内にガソリンが混入していたら新しいエンジンオイルと交換する。
● エアクリーナエレメントが目詰まりしている。	エレメントを外して清掃する。 または新しいものと交換する。
● 点火プラグの花火が弱い、飛ばない。	点火プラグを外して付着したカーボンを清掃する。または、新しいものと交換する。

■エンジン回転数が上がらない、不安定、出力が不足するとき

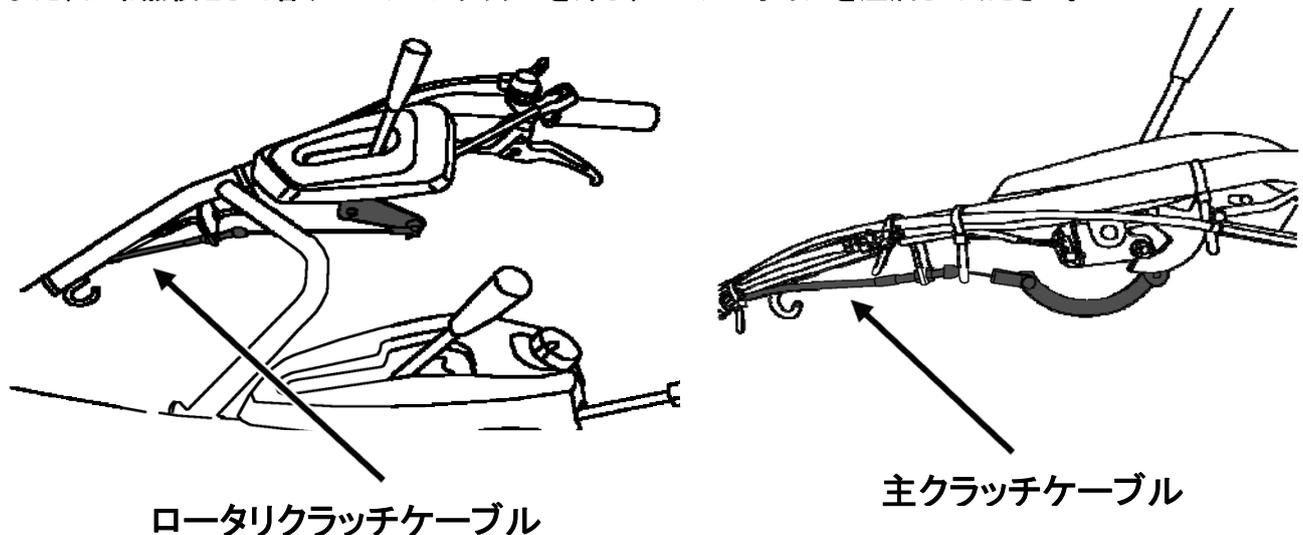
原因	処置
● エンジンが暖まってもチョークを引いた(閉じた)まま運転している。	チョークを戻す(開く)。
● フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外して掃除する。 キャブレター内のガソリンも排出する。
● エアクリーナエレメントが汚れている。	エレメントを外して掃除する。
● スロットルケーブルの引っ張りが不足している。	ケーブルのセット位置を調節する。

■エンジンが振れる、異音が発生する。

原因	処置
エンジン取付ボルトがゆるんでいる。	取付ボルトを締付ける。

上記の処置をしてもトラブルが直らないときは、購入先にご相談ください。

また、日常点検として各ケーブルのキャップを外し、エンジンオイルを注油してください。

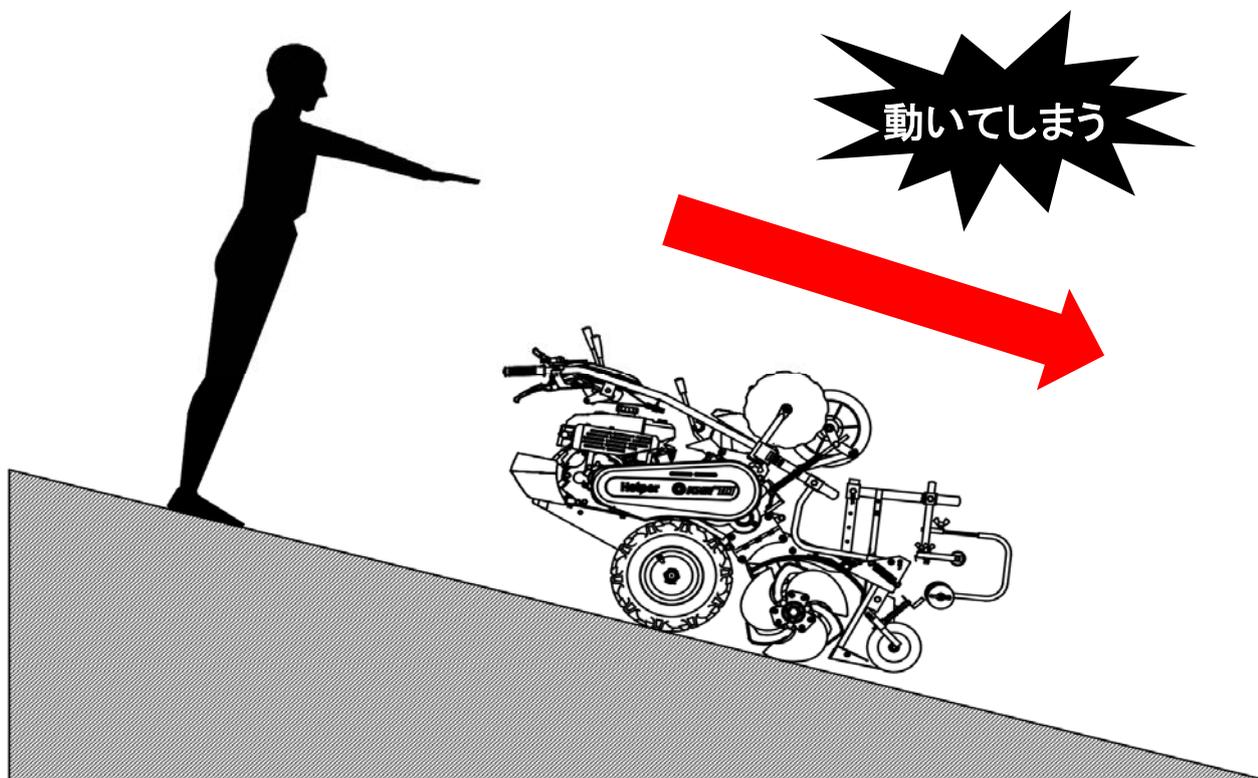


トラブルと処置

■本製品の駐車について

重要

- ※ 本製品には駐車ブレーキがありません。
製品の停車は必ず平坦な場所で行なってください。
傾斜地で止めようとする、機体が動いてしまいます。



補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等でご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的に上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするよう研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷されていますので、安心してお使いいただけます。市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

品番 238910000751001

・製品のご相談は下記の販売店へ



関東農機株式会社

本社工場/本社営業所 〒323-0819 栃木県小山市横倉新田 493
TEL 0285(27)3271(代) FAX 0285(27)4627

鏡石工場/福島営業所 〒969-0403 福島県岩瀬郡鏡石町久来石 57
TEL 0248(62)4131(代) FAX 0248(62)4133

盛岡工場/東北営業所 〒028-4132 岩手県盛岡市渋民字岩鼻 20-55
TEL 019(683)1911(代) FAX 019(683)1119

九州営業所 〒866-0813 熊本県八代市上片町 1351-4
TEL 0965(31)0730(代) FAX 0965(31)0760